

2027 年度

お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科（博士後期課程）

Guidelines for Application to the 2027
Doctoral Program
Graduate School of Humanities and Sciences
Ochanomizu University

学 生 募 集 要 項

[一 般 入 試]

[外国人留学生入試]

〔注〕生活工学共同専攻学生募集要項は別冊子です。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03(5978)5697

HP <https://www.ao.ocha.ac.jp/>

※試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらかじめ通知します。随時、入試情報 WEB サイトで最新情報を確認してください。

(注) お茶の水女子大学博士前期課程から引き続き
学内進学する者は、留学生も含めて「進学者選考要項」
で出願すること。ただし生活工学共同専攻への進学
を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」
(別冊子) で出願すること。

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| I. 各専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） | 1 |
| 比較社会文化学専攻 | |
| 人間発達科学専攻 | |
| ジェンダー学際研究専攻 | |
| ライフサイエンス専攻 | |
| 理学専攻 | |
| II. 学生募集日程等 | |
| 1. 専攻・領域及び募集人員 | 5 |
| 2. 試験期日・合格発表日・出願期間 | 5 |
| 3. 出願方法 | 5 |
| 4. 出願資格 | 6 |
| 5. 選考方法 | 7 |
| 6. 試験場所 | 7 |
| 7. 合格発表等について | 7 |
| 8. 入学時期 | 7 |
| 9. 10月入学について | 7 |
| 10. 検定料、入学料及び授業料 | 7 |
| 11. 入学手続関係案内 | 8 |
| 12. 受験上・修学上の配慮の事前相談について | 8 |
| 13. 注意事項 | 8 |
| 14. 学生支援について | 8 |
| 15. 長期履修学生制度について | 9 |
| 16. Global Students Course について | 9 |
| 17. 個人情報及び試験成績の利用について | 9 |
| 18. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先 | 9 |
| III. 選考方法詳細 | |
| 【全専攻共通】 | |
| 1. 出願書類 | 10 |
| 2. 試験科目 | 12 |
| 3. 試験日程 | 12 |
| 4. 口述試験要領 | 12 |
| 【各専攻詳細】 | |
| 比較社会文化学専攻 | 13 |
| 人間発達科学専攻 | 13 |
| ジェンダー学際研究専攻 | 14 |
| ライフサイエンス専攻 | 14 |
| 理学専攻 | 15 |
| IV. 担当教員及び主な授業科目 | 16 |
| インターネット出願の流れ | 27 |

I. 各専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

※生活工学共同専攻の概要及び入学者受入方針については、生活工学共同専攻学生募集要項を参照すること。

1. 目的

博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

| 専攻 | 比較社会文化学専攻 | 人間発達科学専攻 | ジェンダー学際研究専攻 | ライフサイエンス専攻 | 理学専攻 |
|------|-----------|----------|-------------|------------|-----------------------------|
| 入学定員 | 25名 | 13名 | 4名 | 12名 | 17名 〔うち情報科学領域 12名を含む〕 |

※生活工学共同専攻については、入学定員2名である。

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学、生活科学の博士の学位である。
専攻分野に応じて、学位が授与される。

6. 各専攻・領域の要旨及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

◎ 比較社会文化学専攻

比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際的視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。

本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うことに強い自覚をもった人材を求めており、特に以下の2点を、前提として強調しておきたい。

1. 資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。
2. 日本を含む世界各地の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となり得る知識と研究能力を有していること。

| 領域 | 要旨 |
|-------|---|
| 国際日本学 | 国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応して、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界の教育拠点となることを目標としている。 本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の涵養と、総合的な知識の蓄積、さらに研究交流への積極的な参加や、そうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成にも留意して、研究を進めていくことが期待される。 |
| 言語文化論 | アジア、欧米を中心とする各国文学・言語学・言語教育学の専門知識を深め、高度な研究を行う。必要に応じて領域横断的な研究視点を採り入れるとともに、言語の研究、言語を介した文学・文化の研究における新たな知見を国際的に発信する能力を養う。専門的な研究を行うために必要な高度な語学力を有し、言語芸術あるいは言語そのものに関する幅広い知識と、独創的・多角的な観点から研究を行う能力を持ち、研究者として国際的に活躍することを目指す意欲的な学生を求めている。 |

| | |
|-------|--|
| 比較社会論 | 哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、過去の思想・歴史を踏まえつつ、日本・アジア・欧米・イスラムの諸地域を相互に比較横断する研究を推し進める領域である。社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を進めていくことが期待される。 |
| 表象芸術論 | 美術・工芸・服飾・舞踊・音楽を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する領域である。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の強力な媒介として社会に提言することに意欲をもった学生を求める。 |

◎ 人間発達科学専攻

人間発達科学専攻は、人間の生涯にわたる発達と社会環境にかかわる広いテーマに関連する高度の専門研究を進める女性研究者となる人を育てている。人間の発達、環境、教育、生活などの領域について、日本や世界の、過去から現在、あるいは21世紀への諸問題の解決に意欲を持つ学生の入学を期待する。後期課程3年間で博士論文を完成できることが期待される。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への論文の投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果をあげることが求められる。まず、優れた修士論文を完成させること。入学試験では、修士論文の質と、今後の研究計画が明確かどうかを審査する。研究指導を受けたいと考える教員に事前に相談すること。意欲的な学生の皆さんの応募を期待する。

| 領域 | 要旨 |
|----------|---|
| 教育科学 | 人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論、教育心理学、特別支援教育論を設置する。本領域では、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。本領域は、人間の発達に深い関心を持ち、自身の専門とする領域の研究方法に通暁した学生の入学を希望する。 |
| 心理学 | 心理学領域では、人間の心理を、脳を核として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「発達心理学先端研究」「認知科学論」「メディア心理学」「健康行動論」「教育心理学研究」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること、英文で学術論文を作成する力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「発達心理学」「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学／健康心理学」「教育心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。 |
| 発達臨床心理学 | 発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を柱として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業等のさまざまな場における心理臨床的、発達の課題について専門的に対処する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を求める。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。 |
| 社会学・社会政策 | 本領域では、社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を探究する。社会科学的研究において、理論と実証を統合するだけでなく、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることを重視する。よって、入学を希望する者には、社会科学のいずれかの分野における堅実な基礎的教養を備えていること、理論的な問題関心とそれに取り組むための経験的研究方法への関心の双方を有していること、そしてその研究が学術的および社会的・実践的にどのような意義と可能性を持つのかについて説得的に説明できることが求められる。 |
| 保育・児童学 | 保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期以降の保育・幼児教育、発達支援、子育て支援、0歳から就学期・児童期を見通した接続的教育等を研究する研究者、専門職業人を養成する。入学を希望する者には、子どもをとりまく多様な実践的・社会的課題に取り組む意欲をもち、分析的・科学的にアプローチするための理論および研究方法論を習得していることが求められる。 |

◎ ジェンダー学際研究専攻

家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、法政策、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、幅広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究に関心を持ち、これらに関する諸問題の解決に意欲を持つ方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域での優れた修士論文またはそれに代わるものを完成させていることが必要である。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果を挙げることが求められ、3年間で博士論文を完成することが期待される。研究指導を受けたいと考える教員に必ず事前に相談をすること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

| 領 域 | 要 旨 |
|--------|---|
| ジェンダー論 | ジェンダーを中心とした理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点を中心にした分析は、家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、医療など、あらゆる政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群を中心に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。本領域の志願者には、学際的・国際的な視野に立ってジェンダーの視点を中心に研究を推進する意欲と専門的知識をもつことが求められる。 |

◎ ライフサイエンス専攻

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解でき、ライフサイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担う人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験・調査を主体とする研究計画を作成、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自覚と意欲を持った上で、データ調査分析能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が求められる。

| 領 域 | 要 旨 |
|-------------------|--|
| 生 命 科 学 | 本領域では、高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する研究を主体的に行える人材を育成することを目指している。このことを踏まえ、人材の選考にあたって、以下の基礎知識と技術を求める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 生命科学に関する研究への関心と、生命科学の諸問題の解決に対する強い意欲。 2 生命科学に関する修士号相当の基礎的な知識、実験解析法、統計的解析法。 3 生命科学に関する研究成果の論理的、体系的な記載と、研究成果の発表を実施する力。 |
| 食 品 栄 養 科 学 | 本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストの育成をめざす。学生には、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康や疾病と食品・栄養との関連、といった食を取りまく諸問題について深い興味を持ち、研究・実験に対し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を求める。また有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などの基本的な知識を有し、これらの知識を用いて専門的・先端的研究を行う意欲が必要である。 |
| 遺 伝 カ ウ ン セ リ ン グ | 遺伝カウンセリング学は遺伝医学の発達に伴って誕生した学際的な学問で、人類遺伝学、遺伝医学、カウンセリング、生命倫理と幅広い領域と連携しながら独自の学問体系を構築している。遺伝カウンセリングは、遺伝に関する課題を抱えた人達に対する心理社会的支援であるが、その支援には正確かつ最新の遺伝学的情報を提供することも含まれる。したがって、遺伝カウンセリング学分野における探究および遺伝カウンセリングの指導においては、遺伝学の知識を利用できるだけでなく、遺伝カウンセリングを実践するための技術や対人援助職および教育者としての態度面の理解が必須である。 本領域では遺伝カウンセリング学の発展的な知識と実践技術を習得し、省察的实践者としての態度を学ぶと同時に、研究者としての指導能力を身につけるための教育を行なう。 本領域の志願者には、基本的な遺伝カウンセリング学を修得していることが求められ、さらに対人援助職および教育者としての人格・態度、研究者としての探究心が求められる。 |

◎ 理学専攻

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を保ちながらより高度な専門的能力の開発を望む方や独自のライフスタイルで学問を究めることを志す女性を広く求めたい。

| 領 域 | 要 旨 |
|---------|--|
| 数 学 | 代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行いうる能力、数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力の上に、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となろうという志をもち、自己の専門分野のみならず隣接分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。 |
| 物 理 科 学 | 物理学の各分野及び他領域との隣接分野における最先端の研究を通して、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になろうとする自覚と意欲をもった学生を求めている。 |
| 化学・生物化学 | 物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や糖などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの諸分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもち、国際的視野を拡げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力を惜しまない人を歓迎する。 |
| 情 報 科 学 | 情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人達を経験を問わず広く受け入れている。 |

Ⅱ. 学生募集日程等

1. 専攻・領域及び募集人員

| 専攻 | 領域 | 9月入試 | 3月入試 | 募集人員(注) | |
|-------------|--|------|------|--------------------------|----------|
| | | | | 一般入試 | 外国人留学生入試 |
| 比較社会文化学専攻 | 国際日本学領域 言語文化論領域 比較社会論領域 表象芸術論領域 | × | ○ | 25名 | 若干名 |
| 人間発達科学専攻 | 教育科学領域 心理学領域 発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域 保育・児童学領域 | × | ○ | 13名 | 若干名 |
| ジェンダー学際研究専攻 | ジェンダー論領域 | × | ○ | 4名 | 若干名 |
| ライフサイエンス専攻 | 生命科学領域 食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域 | ○ | ○ | 12名 | 若干名 |
| 理学専攻 | 数学領域 物理科学領域 化学・生物化学領域 情報科学領域 | ○ | ○ | 17名 (情報科学領域 12名含む) | 若干名 |

(注) 募集人員(一般と留学生)には、進学者選考の一般入試と外国人留学生入試それぞれの募集人員を含む。

※「生活工学共同専攻」の入試については、「生活工学共同専攻学生募集要項」を参照すること。

2. 試験期日・合格発表日・出願期間

(1) 試験期日・合格発表日

| | 試験期日 | 合格発表日 |
|------|--------------------|-------------------|
| 9月入試 | 2026年9月7日(月) | 2026年9月11日(金) 12時 |
| 3月入試 | 2027年3月3日(水)・4日(木) | 2027年3月10日(水) 17時 |

※ 試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性がある。変更があった場合は、あらためて通知する。随時、入試情報WEBページで最新情報を確認すること。

(2) 出願期間

| | インターネット出願登録期間 | 出願書類郵送受付期間 |
|------|----------------------------------|------------------------------|
| 9月入試 | 2026年7月6日(月)9:00～7月15日(水)8:59 | 2026年7月10日(金)～7月15日(水)【必着】 |
| 3月入試 | 2026年12月14日(月)9:00～12月23日(水)8:59 | 2026年12月18日(金)～12月23日(水)【必着】 |

3. 出願方法

インターネット出願サイトで登録後、検定料の納入を済ませ、各専攻で定められた出願書類を一括して、必ず本学所定の出願用封筒貼付用宛名シート(インターネット出願時印刷可能)を用い、「書留速達」で次頁に記載の宛先に郵送すること。出願書類郵送受付期間最終日は17時必着とする。ただし、最終日前日の日本国内の受付局消印のある物に限り、期間後に到着した場合でも受理する。なお、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えないが、事前に本学入試課まで連絡すること。

窓口では受け付けないので注意すること。また、土日祝日は郵送物を受けとることができないので絶対に配達日に指定しないこと。

郵送（提出）先 〒112-8610 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号

お茶の水女子大学 入試課 宛

インターネット出願の流れについては、27～30 ページ「インターネット出願の流れ」を参照すること。

受験票は試験日の7日前までを目途にインターネット出願サイトのマイページに掲載される。インターネット出願サイトのマイページを確認しておくこと。受験者心得、口述試験要領・日程案内等についても併せて通知する。内容を確認のうえ、試験当日に必ず持参すること。受験票は入学手続の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。

4. 出願資格

- 【一般入試】 下記(1)～(8)のいずれかに該当する女子とする。
- 【外国人留学生入試】 下記(1)～(8)のいずれかに該当する外国人女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び入学時に取得できる見込みの者とする。
- ただし、日本において高等学校を卒業した者は、一般入試で出願すること。

なお、ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域については、下記に該当し、かつ、認定遺伝カウンセラー養成専門課程修了（見込）者もしくは認定遺伝カウンセラーの資格をもつ者に限る。

※ ただし、10月入学は、該当領域の出願者のみ対象とし、下記2027年3月31日を2026年9月30日と読み替える。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（2027年3月31日までに取得見込の者を含む）
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与見込の者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与見込の者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与見込の者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与見込の者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学において教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）【参考】参照
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2027年3月31日までに24歳に達する者

【参考】（平成元年文部省告示第118号（抜粋））

学校教育法施行規則第156条第6号の規定により、大学院の入学に関し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者を次のように指定する。

1. 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
2. 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

※ 出願資格(2)～(8)により受験を希望する者は、出願前に入試課に照会すること。

(6)～(8)により受験を希望する者は、出願に先立ち「資格審査」を行う。資格審査出願期間より前に18. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先にメールで申し出ること。なお、入試時期により資格審査出願期間が異なるので注意すること。

資格審査 9月入試：2026年6月11日（木）～12日（金）【必着、ただし6月11日（木）の消印は受理】
出願期間 3月入試：2026年11月19日（木）～20日（金）【必着、ただし11月19日（木）の消印は受理】

資格審査結果 9月入試：2026年6月24日（水）までに申請者あて郵送により通知する。
3月入試：2026年12月2日（水）までに申請者あて郵送により通知する。

出願資格を認められた者は、インターネット出願登録を済ませ、出願書類を所定の出願期間内届くように郵送すること。

5. 選考方法

学力検査（言語試験・口述試験）及び出願書類を総合して行う。

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので、p. 10 からの「Ⅲ. 選考方法詳細」を参照のこと。

6. 試験場所 お茶の水女子大学

7. 合格発表等について

合格発表日に合否照会システムで通知する。

下記 URL もしくは右記二次元コードにアクセスすること。

<https://www.gouhi.com/ocha/>

電話等による合否の問合せには一切応じない。

二次元コード



8. 入学時期

2027 年 4 月（2026 年 10 月入学者を除く。）

9. 10 月入学について

次の専攻・領域について 10 月入学（入学時期：2026 年 10 月）を希望する者は、2026 年 9 月入試時に出願することができる。希望する場合は、インターネット出願サイトで登録の際、希望入学年月は「2026 年 10 月入学」をチェックすること。

出願が受理された後は一切 4 月入学に変更はできないので注意すること。

ただし、10 月入学の場合は、2026 年度の専攻・領域に所属し、2026 年度の授業科目を履修することになるので、注意すること。また、9 月から授業を開始する場合があるため、志望教員には必ず事前に連絡をとること。

○ライフサイエンス専攻 生命科学領域、食品栄養科学領域

○理学専攻 全領域

10. 検定料、入学料及び授業料

検 定 料 30,000 円

(1) 2027 年 4 月入学者

入 学 料 282,000 円 (予定額)

授 業 料 半期分 267,900 円 (年額 535,800 円) (予定額)

(2) 2026 年 10 月入学者

入 学 料 282,000 円

授 業 料 半期分 267,900 円 (年額 535,800 円)

(注 1) 検定料の支払方法については 27～30 ページを参照すること。

(手数料は本人負担)。

(注 2) 日本国外から出願する場合も、可能な限り代理人（日本に在住する者）が日本国内からの振込み方法により納入すること。やむをえず海外から送金する場合は、振込銀行手数料（海外銀行分）と支払銀行手数料（日本国内銀行分）の両方が依頼人（出願者）負担となるよう現地で申し出た上で、必ず日本円で振り込むようにすること。その上で、検定料の全額が、出願期間内に大学に到着するように送金すること。

【海外送金の場合の必要情報】

銀行名 (Bank name) : MUFG Bank, Ltd.

支店名 (Branch) : Head Office

銀行住所 (Address) : 2-7-1, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

受取名義人 (Beneficiary) : Ochanomizu University

口座番号 (Account No.) : 7876401

SWIFT Code : BOTKJPJT

(注 3) 日本政府国費外国人留学生に対しては、原則的に徴収しない。

(注 4) 入学時及び在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。

(注 5) 入学時には、上記入学料、授業料のほか学生教育研究災害傷害保険料など若干の経費を要する。

(注 6) 入学手続後は、事情により入学を辞退した場合でも、入学料は返還されない。

(注 7) 払込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。

・検定料を振り込んだが本学に出願しなかった、又は出願が受理されなかった場合

・検定料を誤って二重に振り込んだ、又は多く振り込んだ場合

検定料は出願者からの返還請求に基づき返還するので、上記の返還事由に該当する場合には、2027 年 3 月 10 日（水）までにお茶の水女子大学入試課に連絡すること。（出願した後に受験を取りやめた場合は、返還事由に該当しない。）

11. 入学手続関係案内

下記 URL にアクセスし、入学手続期間に注意して、手続をすすめること。

https://www.ao.ocha.ac.jp/admission_procedure/index.html

- ※ 入学試験合格者への連絡事項[PDF]に記載された入学手続期間を予め確認しておくこと。
- ※ 合格発表から入学手続までの期間と手続期間ともに短期間となる場合があるので特に注意すること。このため、15.に記載する長期履修学生制度を申請する場合は必ず事前に相談すること。
- ※ 合格発表後、住所を変更した場合は必ず入試課へ申し出ること。

12. 受験上・修学上の配慮の事前相談について

- (1) 心身に障がいあるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする者（点字又は代筆による解答を希望する者を含む）については、本学入試課へ申し出の上、入試の出願約1ヶ月前（9月入試：2026年6月12日（金）、3月入試：2026年11月20日（金））までに「受験上の配慮事前相談申請書」「医師の診断書」等を提出すること。なお、受験上の配慮を講じる必要はないまでも、修学上の不安等を感じる者も、同様に申し出ること。
また、出願後に不慮の事故等により、同様に受験上及び修学上の配慮を希望するに至った場合には、直ちに入試課へ申し出の上相談すること。
- (2) 本学の「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションから、自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する者を2020年4月入学者から受け入れている。戸籍又はパスポートの性別と性自認が異なっている者については、入学後の学生生活をサポートするために、通称名や更衣室の使用などについて、あらかじめ情報を提供したいと考えているので、入試の出願約2ヶ月前（9月入試：2026年5月15日（金）、3月入試：2026年10月16日（金））までに必ず入試課に申し出ること。その際に、出願資格等を確認するため、「出願申出書」及び「住民票又はパスポートの写し」等を提出すること。本学に正規生として在学中の学生は「出願申出書」と学生証の写しを提出すること。申し出によって、合否判定の際に不利に取り扱われることはない。

13. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2つ以上の専攻に出願することはできない。
- (2) 提出された書類に不備がある場合には、受理しない。また、出願受理後は、いかなる事情があっても、出願書類等の変更・返却及び検定料の払い戻しの請求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、入試課（p.9の問い合わせ先）に問い合わせること。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- (5) 受験票は、入学手続（合格者）の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。
- (6) 出願後受験を辞退する場合や、合格後入学を辞退する場合には、すみやかにその旨連絡のこと。
- (7) 出願書類について、虚偽の申請、不正等の事実が判明した場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがある。
- (8) 志願者に対する宿泊施設の紹介、斡旋は行わない。
- (9) 最新情報は入試情報 WEB ページで公表する。（URL：<https://www.ao.ocha.ac.jp/>）
- (10) 2つ以上の専攻に記載されている教員を指導教員にする場合には入試課に問い合わせること。

14. 学生支援について

経済的理由により入学料、授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者に対し、選考の上、入学料、授業料の全額又は半額を免除、あるいは徴収を猶予する制度がある。

奨学金としては、本学に設置された保育所を利用する学生に保育料の一部を援助する育児支援奨学金がある。

その他日本学生支援機構による奨学金、民間の法人や団体からの奨学金等、学生支援に関する詳細は、本学ホームページを参照すること。

○入学料及び授業料の減免・徴収猶予制度について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/info/exemption.html>

○奨学金について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/about.html>

○学生寮について

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html>

また、本学では国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の助成を受けて、生活費・研究費などの経済支援やキャリア支援を行う、以下のプログラムを実施している。

・「革新」×「共創」で未来を拓く女性博士育成プロジェクト T-COCOA（SPRING）

※2027年4月の新入学者を対象とした募集については、2026年秋頃に本学ホームページに掲載予定である。

※予算の都合等により、支援内容を変更または募集を中止することがある。

不明な点については、本学学生・キャリア支援課（下記）に問い合わせること。

入学料及び授業料免除、学生寮担当 TEL 03-5978-2646, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

奨学金担当 TEL 03-5978-5148, E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp

ただし、外国人留学生の奨学金については、国際課（下記）に照会すること。

留学生奨学金担当 TEL 03-5978-5143, E-mail ryunai@cc.ocha.ac.jp

15. 長期履修学生制度について

職業を有する等の事情により、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準修業年限で修了することが困難な学生を対象として、長期履修学生制度を導入している。そうした事情にある者は、3年間で設定されている修業年限を4年間から6年間で履修し、課程を修了することを認められることがある。（全ての申請者が適用を受けられる訳ではなく、制度の趣旨に沿っているかを学内の委員会では審査し、適用の可否を決定する。）「職業を有する等」とは、有職者（正規雇用、臨時雇用（パートタイムなど正規に近い勤務時間の者）、自営業等）、家事、育児、介護、障がい等の事情にあることをいう。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、「定められた授業料の年額」に「標準修業年限」を乗じて得た額を「許可された修業年限」で除して得られた額となる。

長期履修を希望する者は、入学手続期間内に申請書類を提出すること。不明な点については、本学学務課大学院担当（TEL 03-5978-5821, 5822, E-mail daigakuin@cc.ocha.ac.jp）に問い合わせること。

16. Global Students Course について

2020年4月入学者より、英語による入学者選抜、入学後の講義受講、論文指導及び学位取得を可能とする Global Students Course を設けている。本 Course 担当教員については、p.16 からの「IV. 担当教員及び主な授業科目」一覧で確認すること。また、本 Course 受験希望者は、事前に入試課（問い合わせ先は下記 18.）に連絡すること。

17. 個人情報及び試験成績の利用について

- (1) 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則」に基づいて適切に取り扱う。
- (2) 大学が取得した氏名、住所、成績及び学修状況等の個人情報は、入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金の選考等）及び授業料等に関する業務を行う為に必要な範囲内で利用する。
- (3) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試の改善や志願動向の調査・分析及びこれらに付随する業務を行うために必要な範囲内で利用する。調査・分析等結果の発表に際しては個人が特定できないように処理する。
- (4) お茶の水女子大学は、「個人情報の保護に関する法律」に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく今回入手した個人情報を他の目的で利用又は第三者に提供することはない。

18. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 入試課

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

TEL (03) 5978-5697（土日祝日、年末年始を除く平日9時～17時受付）

E-MAIL nyushi@cc.ocha.ac.jp

Ⅲ. 選考方法詳細

【全専攻共通】

1. 出願書類（1～7は全員提出、8はジェンダー学際研究専攻のみ提出、9は外国人留学生のみ提出）

| | | |
|---|--------------------|--|
| 1 | 志願者名票 写真 | インターネット出願サイトで入力後、A4判の用紙にカラーで片面印刷したもの。 |
| 2 | 修士課程修了 (見込) 証明書 | 最終出身校の長が作成したもの(注3) (コピー不可。外国の大学を卒業した者で、卒業証書しかない場合は、大使館等公的機関の公証等の証明を受けたもの、または本学入試課で原本証明したものを提出すること。 中国 の大学出身の場合は(注4)を参照すること。) |
| 3 | 修士論文等 (注5) | 2部 ※各専攻ごとに詳細参照のこと。 提出論文は、試験終了時に返却する。 |
| 4 | 修士論文等の要旨 (注6) | 6部 ※各専攻ごとに詳細参照のこと。 指示事項に沿っていれば、用紙の縦方向・横方向、罫紙・白地の別は自由。 |
| 5 | 研究計画書 (注6) | 6部 比較社会文化学専攻・人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻は、日本語1,000字前後、横書き、A4判用紙2枚以内におさめること。 ライフサイエンス専攻・理学専攻は、日本語1,000字前後、又は英語400語程度で、A4判用紙2枚以内におさめること。 |
| 6 | 成績証明書 | 博士前期課程(修士課程)のもの(コピー不可)(注3) |
| 7 | 検定料納入確認書 (検定料) | 30,000円 各種支払方法については27～30ページを参照 ※日本政府国費外国人留学生は原則的に不要のため、 <u>国費外国人留学生であることを記載した証明書を提出すること。</u> なお、本学を進学希望校として奨学金支給期間延長申請をしている場合に限る。 |

(ジェンダー学際研究専攻のみ追加提出書類)

| | | |
|---|-------------------------|---|
| 8 | TOEFL 又は IELTS のスコア票 | TOEFL のスコア票又は IELTS の成績証明書。受験日が本学入学試験日からさかのぼって2年以内を有効とする。 各々のスコア票の提出方法に関しては、(注7)を参照すること。 |
|---|-------------------------|---|

(外国人留学生のみ追加提出書類)

| | | |
|---|-----------------------|---|
| 9 | 住民票の写し等 (外国人留学生のみ) | 出願時日本に在住している場合は、市区町村発行の「住民票の写し(在留資格が明記されたもの、コピー不可)」を、それ以外の外国人にあつては、パスポートの写し(本人の氏名、生年月日、性別、国籍が明記された箇所)を提出すること。 |
|---|-----------------------|---|

(注1) これらの書類の他に、指導教員又はそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。外国において修士課程を修了した者は、当該外国の指導教員又は出身大学院の指導教員によるものとする。

(注2) 出願書類のうち、英語以外の外国語で書かれた証明書類には日本語訳を添付すること。

(注3) 旧姓(名)の修了証明書や成績証明書等を使用する場合は、改姓した旨(例:○年○月○日、婚姻により改姓)を証明書の余白に記載すること。

(注4) 中国国内の中国高等教育学生信息网(CHSI)または日本国内の CHSI 中国学歴・学籍認証センター日本代理機構に次の証明書(英語版に限る)の発行を依頼し入手すること。

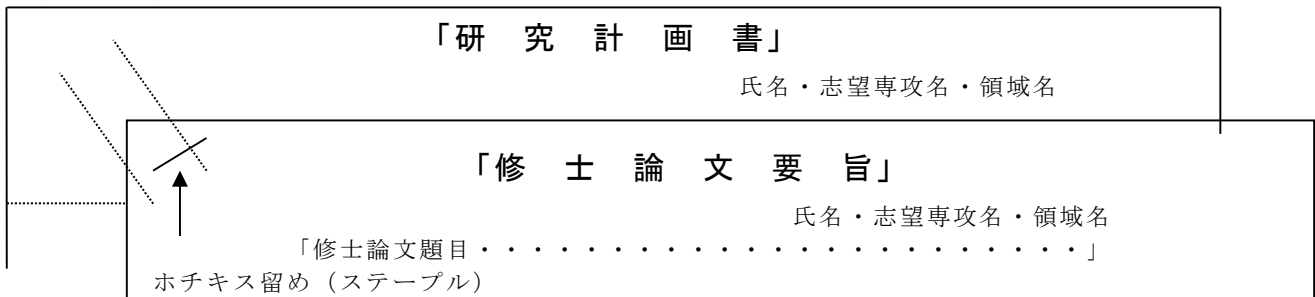
既卒者: (Online) Verification Report of Higher Education Qualification Certificate
および (Online) Verification Report of Higher Education Degree Certificate

卒業見込者: (Online) Verification Report of Student Certificate

なお、提出にあたっては発行機関が作成した証明書の原本を基本とし、発行手段がウェブサイトのみである場合に限りダウンロードしてA4判に印刷したものを認める。

- (注5) 一度提出された論文等は差替することができない。修了見込の学生の論文提出期限については、【各専攻詳細】を参照すること。
- (注6) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組にして左肩を重ねてホチキス留め(ステープル)すること。下記参照。
- (注7) 【TOEFL スコア票の提出方法】
TOEFL テストのスコアは、TOEFL-iBT のスコアのみ有効とする。Home Edition 版等自宅受験型のスコアは認められない。TOEFL のスコア票については、ETS アカウントからダウンロードできる受験者用スコアレポートで“120 点満点のスコアが併記された Test Taker Score Report”をA4判で印刷したものを提出すること。スコアの種類は、Test Date スコアのみ有効とし、MyBest スコアは認められない。
- 【IELTS 成績証明書の提出方法】
IELTS テスト(コンピュータ版を含む)のスコアは、アカデミック・モジュールのスコアのみ有効とする。Indicator 等自宅受験型のスコアは認められない。IELTS テストの成績証明書(Test Report Form-TRF)は、原本とコピーを提出すること。電子成績証明書(eTRF)の場合はA4判で印刷したものを提出すること。
直近の受験のため、IELTS の成績証明書(TRF)の原本が間に合わなかった場合に限り、受験を証明する書類(受験票の写しなど)又は Online 上のスコアプリントを提出し、9月入試に関しては2026年7月24日(金)までに、2月入試に関しては2026年12月25日(金)までに必ず IELTS 成績証明書(TRF)の原本とコピーを書留速達にて提出すること。
原本の返却を希望する場合は、所定額の郵便切手を貼付し、返送先を明記した封筒を必ず同封すること。封筒のサイズによっては証明書類が折られるため、原状のまま返却を希望する場合には封筒のサイズに注意すること。なお、本学入試課で原本証明することで当該出願書類に代えることができるので、出願前に申し出のうえ相談すること。
- (注8) Global Students Course を希望する受験者は、TOEFL-iBT のスコア票又は IELTS(アカデミック・モジュール)の成績証明書を提出すること。受験日が本学入学試験日からさかのぼって2年以内を有効とする。TOEFL のスコア票については、ETS アカウントからダウンロードできる受験者用スコアレポートで“120 点満点のスコアが併記された Test Taker Score Report”をA4判で印刷したものを提出すること。IELTS の成績証明書(Test Report Form-TRF)はA4判でコピーしたものを提出すること。電子成績証明書(eTRF)の場合はA4判で印刷したものを提出すること。

(注6より)



2. 試験科目

| 専攻 | 言語試験(注) | | 口述試験 |
|-----------|---|--|---|
| | 一般入試 | 外国人留学生入試 | |
| 比較社会文化学 | 英語・フランス語・ドイツ語・中国語から1言語を選択(辞書使用不可) ※本学を2025年9月、2026年3月に修了した者はこの試験科目を省略する。 | 英語・フランス語・ドイツ語・中国語・日本語から1言語を選択(辞書使用不可・母語不可) ※本学を2025年9月、2026年3月に修了した者はこの試験科目を省略する。 | 主論文及び研究計画 |
| 人間発達科学 | 英語(辞書使用不可) | 英語(語学辞書持込可(電子辞書は除く)) ※専門分野の日本語に関する試験を口述試験の中で行う。 | 主論文及び研究計画 ※外国人留学生入試では、専門分野の日本語に関する試験も行う。 |
| ジェンダー学際研究 | 本学指定の外部外国語検定試験(英語)の成績を提出(※出願書類(注7)参照) | | |
| ライフサイエンス | 英語 ※専門分野の英語に関する試験を口述試験の中で行う。ただし、本学を2023年3月から2026年4月までに修了した者はこの試験科目を省略する。 | | 主論文及び研究計画 ※専門分野の英語に関する試験も行う。 |
| 理学 | なし | | 主論文及び研究計画 |

(注) 言語試験で選択する言語は、インターネット出願登録の際に登録すること。なお、ジェンダー学際研究専攻については、インターネット出願登録の際に「外部検定」にチェックすること。

3. 試験日程

9月入試

| | 2026年9月7日(月) |
|------|---------------|
| 言語試験 | なし |
| 口述試験 | 10時00分～19時10分 |

3月入試

| | 2027年3月3日(水) | 2027年3月4日(木) |
|------|---------------|---------------|
| 言語試験 | 10時00分～11時20分 | なし |
| 口述試験 | 13時00分～18時40分 | 10時00分～19時10分 |

(注1) 口述試験はこの内の40分間であり、個人の日時については受験票通知の際、一覧で通知する。

(注2) ライフサイエンス専攻では、口述試験時に英語の試験を行うので、言語試験を受験する必要はない。

4. 口述試験要領

- 言語試験を課された者は、言語試験を受けなければ口述試験は受験できない。
- 口述試験は、本学で指定する日時とし、願書受理後、受験票通知の際、一覧で通知する。
- 試験において、修士論文(又はそれに代わるもの)及び研究計画の内容・意義について比較社会文化学専攻は10分程度、人間発達科学専攻・ジェンダー学際研究専攻・ライフサイエンス専攻・理学専攻は15分程度の説明を求められる。また、ライフサイエンス専攻では、該当者に専門分野の英語の試験も実施する。
- 使用機器はノートパソコンを除き試験室に用意するので、機器を使用する者は、インターネット出願登録の際に「口述試験使用機器」欄の使用機器にチェックすること。なお、出願受理後の変更には応じられないので注意すること。
貸出する機器はOHC、PCプロジェクター、CDプレーヤー(カセットテープレコーダー兼用)とする。ノートパソコンの貸出はしないので、持参すること。なお、PCプロジェクターはMacPCとの接続には適合していないため、変換アダプタを持参すること。
機器を使用する者は、うまく投影できない場合等に備えて内容をプリントアウトし、配布用に4部持参すること。
- 口述試験終了後、試験担当教員から修士論文(又はそれに代わるもの)が返却される。

【各専攻詳細】 ※ 出願書類の内、3. 修士論文等、4. 修士論文等の要旨に関する内容を含む

比較社会文化学専攻

- ① 出願に際しては、指導を志望する教員の専門と合致しているか、あらかじめ確かめておくことができる。
- ② 3月入試出願に際し、出願期間以降（2026年12月23日（水）以降）に修士論文の提出締切があるため、出願期間中に修士論文を提出できない修了見込の学生は、インターネット出願登録後に印刷した志願者名票の審査論文題目の空きスペースに論文提出締切日を記入（手書き可。）し、論文本体は2027年1月15日（金）【必着、ただし1月14日（木）の消印は受理】までに別途書留速達で提出すること。1月15日（金）以降に提出締切がある場合には、1月14日（木）時点での論文本体を1月15日（金）必着（1月14日（木）の消印は受理）で提出すること。

修士論文等 2部

ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれらを添付することができる。（各2部）

また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文）

修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。（別主題論文）

別主題論文の場合、別紙「審査論文調書」を添付すること。（2部）

※ 修士論文（又は、それに代わるもの）の内容が志望する研究分野と大きく異なる場合は、志望する研究分野に沿った内容の論文を添付することが望ましい。（2部）

※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

人間発達科学専攻

- ① 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、人間発達科学専攻の「担当教員及び主な授業科目一覧」を参照のこと。
- ② 3月入試出願に際し、出願期間以降（2026年12月23日（水）以降）に修士論文の提出締切があるため、出願期間中に修士論文を提出できない修了見込の学生は、インターネット出願登録後に印刷した志願者名票の審査論文題目の空きスペースに論文提出締切日を記入（手書き可。）し、論文本体は2027年1月15日（金）【必着、ただし1月14日（木）の消印は受理】までに別途書留速達で提出すること。1月15日（金）以降に提出締切がある場合には、1月14日（木）時点での論文本体を1月15日（金）必着（1月14日（木）の消印は受理）で提出すること。なお、ここで言う修士論文とは、所属機関にて正式に修士論文として位置付けられているものに限られる。

修士論文等 2部 （注1）

ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。（各2部）

また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文）

修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。（別主題論文）

別主題論文の場合、別紙「審査論文調書」を添付すること。（2部）

※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

ジェンダー学際研究専攻

- ① 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ジェンダー学際研究専攻の「担当教員及び主な授業科目一覧」を参照のこと。
- ② 3月入試出願に際し、出願期間以降（2026年12月23日（水）以降）に修士論文の提出締切があるため、出願期間中に修士論文を提出できない修了見込の学生は、インターネット出願登録後に印刷した志願者名票の審査論文題目の空きスペースに論文提出締切日を記入（手書き可。）し、論文本体は2027年1月15日（金）【必着、ただし1月14日（木）の消印は受理】までに別途書留速達で提出すること。1月15日（金）以降に提出締切がある場合には、1月14日（木）時点での論文本体を1月15日（金）必着（1月14日（木）の消印は受理）で提出すること。

| |
|---|
| 修士論文等 2部 |
| <p>ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれらを添付することができる。（各2部） また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文） 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。（別主題論文） 別主題論文の場合、別紙「審査論文調書」を添付すること。（2部）</p> |
| 修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部 |
| <p>論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば 2,000字以内 英語ならば 800語以内 でA4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。</p> |

ライフサイエンス専攻

- ① 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、ライフサイエンス専攻の「担当教員及び主な授業科目一覧」を参照のこと。
- ② 3月入試出願に際し、出願期間以降（2026年12月23日（水）以降）に修士論文の提出締切があるため、出願期間中に修士論文を提出できない修了見込の学生は、インターネット出願登録後に印刷した志願者名票の審査論文題目の空きスペースに論文提出締切日を記入（手書き可。）し、論文本体は2027年1月15日（金）【必着、ただし1月14日（木）の消印は受理】までに別途書留速達で提出すること。1月15日（金）以降に提出締切がある場合には、1月14日（木）時点での論文本体を1月15日（金）必着（1月14日（木）の消印は受理）で提出すること。

| A | B |
|--|--|
| ①修士課程（博士前期課程）を修了した者 ②修士課程（博士前期課程）を修了見込みの者 ③資格審査該当者 | ④修士課程（博士前期課程）に在学し 9月試験を受験する者 ※9月修了見込みの者は、Aに従う |
| 修士論文等 2部 | 修士論文に代わるもの 6部 |
| <p>ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それらを修士論文に添付すること。（各2部） また、修士論文とは異なる論文で審査を希望する場合は、修士論文の代わりにその論文（複数可能）を各2部提出すること。（別主題論文） なお、修士論文がない場合は、修士論文に相当すると考える論文、著作、講演要旨、活動成果（必ずしも印刷・口頭発表したものでなくともよい）などを審査論文（複数可能）として各2部提出すること。（別主題論文）</p> | <p>修士論文として提出する予定の研究内容を日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4判用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。（各2部）</p> |
| 修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部 | 6部 |
| <p>論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば 2,000字程度 英語ならば 800語程度 でA4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。</p> | <p>※「修士論文に代わるもの」、「研究計画書」の順に1組にして左肩をホチキス留め（ステーブル）すること。</p> |

理学専攻

- ① 出願に際しては、指導を志望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ必ず問い合わせしておくこと。領域代表教員については、理学専攻の「担当教員及び主な授業科目一覧」を参照のこと。
- ② 3月入試出願に際し、出願期間以降（2026年12月23日（水）以降）に修士論文の提出締切があるため、出願期間中に修士論文を提出できない修了見込の学生は、インターネット出願登録後に印刷した志願者名票の審査論文題目の空きスペースに論文提出締切日を記入（手書き可。）し、論文本体は2027年1月15日（金）【必着、ただし1月14日（木）の消印は受理】までに別途書留速達で提出すること。1月15日（金）以降に提出締切がある場合には、1月14日（木）時点での論文本体を1月15日（金）必着（1月14日（木）の消印は受理）で提出すること。

| A | B |
|---|---|
| ①修士課程（博士前期課程）を修了した者 ②修士課程（博士前期課程）を修了見込みの者 ③資格審査該当者 | ④修士課程（博士前期課程）に在学し 9月試験を受験する者 ※9月修了見込みの者は、Aに従う |
| 修士論文等 2部 | 修士論文に代わるもの 6部 |
| ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合は、それらを添付することができる。（各2部） 修士論文以外に別主題について論文がある場合は、その論文を審査論文とすることができる。（別主題論文） なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。（別主題論文） 別主題論文の場合、別紙「審査論文調書」を添付すること。（2部） 審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは日本語又は英語に翻訳して提出すること。（2部） | 修士論文として提出する予定の研究内容を日本語 5,000字程度 又は、 英語 2,000語程度 にまとめること。（A4判用紙） ただし、図表は字数には含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれらを添付することができる。（各2部） |
| 修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部 | |
| 論文要旨は日本語又は英語で提出すること。 日本語ならば 2,000字程度 英語ならば 800語程度 でA4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。 | ※「修士論文に代わるもの」、「研究計画書」の順に1組にして左肩をホチキス留め（ステープル）すること。 |

IV. 担当教員及び主な授業科目

- (注1) ◎は、2027年度末をもって退職予定であり、○は2028年度末をもって退職予定の教員である。
 なお、2026年度末(2027年3月31日付)で退職予定の教員は記載されていない。
 (注2) ※は、領域代表である。
 (注3) GSCは、Global Students Course担当可能教員である。
 (注4) **印の教員は、主任指導教員として志望できない。
 (注5) () は、他専攻の兼任教員であり、当該専攻では主任指導教員にはならない。

2026年6月1日現在

| 比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures | | 03-5978 (下記参照) | |
|---|--|---|--|
| 国際日本学領域 Japanese Studies in a Global Perspective | | | |
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 ◎ ASADA Toru 浅田 徹 ☎(5199) | 日本中世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Kamakura and Muromachi Periods | 【日本中世文学】平安末期から近世初期までの和歌を中心に、社会の中にシステムとして組み込まれた文芸のありかた(『勅撰和歌集』『歌道家』『古今伝授』等)を考察する。その他諸ジャンルにおける秘伝の成立などに関心を持っている。 e-mail: asada.toru@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ OYABU Umi 大藪 海 ☎(5178) | 日本中世史研究 Japanese Medieval History | 【日本中世史】権力による支配構造の解明に取り組んでいる。朝廷や幕府といった中央権力に限定せず、地域権力も検討の対象とし、中央と地域との繋がりにも注目している。 e-mail: oyabu.umi@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ KANDA Yutsuki 神田 由築 ☎(5182) | 日本近世史研究 Japanese Modern History | 【日本近世史】近世の都市や地域社会の構造を、芸能興行など文化的活動の場という視点から捉え直そうとしている。特に、都市や市場に集まる芸能民や商人、遊女、俠客などの集団に関心がある。 e-mail: kanda.yutsuki@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ TANIGUCHI Sachiyo 谷口 幸代 ☎(5206) | 日本近代言語文化論 Japanese Modern Literature and Culture | 【日本近代文学】近代の日本文学における日本の古美術の受容とその影響を研究している。特に川端康成の文学における古美術の受容とその変容過程に関心がある。 e-mail: taniguchi.sachiyo@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ NISHIKAWA Tomomi 西川 朋美 ☎(5334) | 第二言語習得論 Second Language Acquisition | 【第二言語習得】大人・子どもの第二言語習得のメカニズムの解明を目指すとともに、その研究成果の日本語教育への応用を考える。 e-mail: nishikawa.tomomi@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ FUJIKAWA Reman 藤川 玲満 ☎(5202) | 日本近世言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Edo Period | 【日本近世文学】秋里藤島を中心に、近世中後期上方の文学とこれに関わる出版文化について研究している。 e-mail: fujikawa.reman@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ MIZUMURA Mayumi 水村 真由美 ☎(5264) | 舞踊文化分析論 Cultural Analysis of Dancing | 【身体運動科学】舞踊を含む身体運動全般を、生理学およびバイオメカニクスの手法により調査している。トレーニングや練習といったくり返しの運動によって、身体諸機能や動作が変容する可能性に関心をもっている。 e-mail: mizumura.mayumi@ocha.ac.jp | |
| 教授 ○ MIYAUCHI Takahisa 宮内 貴久 ☎(5797) | 日本民俗文化論 Japanese Folk Culture | 【日本民俗学、文化人類学】日本の民俗文化、主として建築文化と住生活について関心がある。特に日本における風水の受容について取り組んでいる。また、口頭伝承だけでなく、書籍、出版、読書生活、リテラシーを通して生活文化の中における文字文化の位相についても研究を進めている。 e-mail: miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp | |
| 教授 ◎ MIYASHITA Satoko 宮下 聡子 ☎(5167) | 文化思想分析論 Japanese Culture and Thought | 【倫理学】倫理と心理と宗教の接点を探るというテーマのもと、人間のあり方について人間の内面と超越次元との関わりにおいて考察している。主として、ユング、フランクフル、フロム、キューブラー＝ロスといった精神科医、心理学者の思想を研究対象としているが、上記のテーマに関わる思想であれば、洋の東西を問わず、研究対象となり得る。 e-mail: miyashita.satoko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ** ISHII Kumiko 石井 久美子 ☎(5205) | 日本語情報論 Information Theory of Japanese Language | 【日本語学】近代から現代の日本語の語彙・表記について研究している。特に、外来語の受容と定着の様相に関心を持っていて。 e-mail: ishii.kumiko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ** UMETADA Misa 理忠 美沙 ☎(5782) | 日本伝統芸能論 Traditional Performing Arts | 【日本近世・近代演劇】河竹黙阿弥を中心に、幕末明治の歌舞伎及びそれと関係する演劇を研究している。 e-mail: umetada.misa@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ** ENDO Midori 遠藤 みどり ☎(5183) | 日本古代史研究 Japanese Ancient History | 【日本古代史】日本古代の天皇制がどのように始まり、続いていくのかについて、キヤキヤ後宮制度、皇太子に注目して研究している。 e-mail: endo.midori@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ** KATO Yumezo 加藤 夢三 ☎(5102) | 日本現代言語文化論 Japanese Contemporary Literature and Culture | 【日本近代文学】主にモダニズムと呼ばれる戦間期の文学と思想の関わりを研究している。 e-mail: kato.yumezo@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ○ TAKEMURA Asuka 竹村 明日香 ☎(5203) | 日本語分析論 Analysis of Japanese Language | 【日本語史】語伝書やキリシタン資料を用いて発音の歴史(音韻史)について主に研究している。上方落語にみられる方言の語彙についても関心がある。 e-mail: takemura.asuka@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ** NISHIZAKA Shohei 西坂 祥平 ☎(5213) | 日本語教育論 Japanese Language Education | 【日本語教育学】第二言語としての日本語の習得と学習について量的かつ質的に分析しながら、日本語教育における指導や支援の在り方を考える。 e-mail: nishizaka.shohei@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ○ MATSUOKA Tomoyuki 松岡 智之 ☎(5200) | 日本中古言語文化論 Japanese Literature and Culture in the Heian Period | 【日本中古文学】『源氏物語』をはじめとする物語文学を中心に、中古文学(平安時代の文学)を研究している。言葉相互の関係に着目した作品解説を主眼とし、社会・制度の歴史や仏教思想と文学作品との関係なども追究している。 e-mail: matsuoka.tomoyuki@ocha.ac.jp | |
| 准教授 ○ YUKAWA Fumihiko 湯川 文彦 ☎(5179) | 日本近現代史研究 Study of Modern Japanese History | 【日本近現代史】日本の近代国家・社会の形成過程について、政治・外交・法制・教育・警察・司法などの観点から多角的に研究している。とくに明治維新の展開構造について中央・地方双方の視点から分析している。 e-mail: yukawa.fumihiko@ocha.ac.jp | |
| 講師 LEE Jiwon 李 址遠 ☎(5212) | 言語コミュニケーション論演習 Seminar: Language and Communication | 【言語人類学、社会言語学】語用とコンテクストという二つの概念を軸に社会における言語使用について考察するとともに、言語人類学の理論的視座の言語教育学への応用を考える。 e-mail: lee.jiwon@ocha.ac.jp | |

| 比較社会文化学専攻 Comparative Studies of Societies and Cultures | | | |
|--|---|--|--|
| 言語文化論領域 Language, Literature, and Culture | | | |
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 Professor 伊藤 さとみ ITO Satomi ☎(5218) | 中国語圏言語文化論 Chinese Linguistics | 【中国語学】現代中国語の文法を形式言語学の視点から研究している。主なテーマは、疑問詞の照応的用法、形容詞の意味論、選択疑問文の研究など。 e-mail: ito.satomi@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor 小松 祐子 KOMATSU Sachiko ☎(5239) | 仏語圏文化論 Francophone Cultures | 【フランス語圏言語文化研究・フランス語教育学】フランス語圏の言語文化をフランス語の言語政策・教育学とあわせて研究している。近年はとくに北米フランス語圏・ベルギーを中心に研究中である。 e-mail: komatsu.sachiko@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor GSC 高桑 晴子 TAKAKIWA Haruko ☎(5227) | イギリス言語文化論 Language and Culture of Britain | 【イギリス・アイルランド小説】極めて近代的な文学形態である小説というジャンルを文化的・社会的文脈において分析する。19世紀のイギリスおよびアイルランド小説を主にネーションとジェンダーという文脈で研究中。 e-mail: takakiwa.haruko@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor 田中 琢三 TANAKA Takuzo ☎(5241) | 仏語圏言語芸術論 Literary Art in French-speaking Countries | 【フランス近代文学】19世紀末から20世紀初頭のフランス文学と政治の関係、特に小説におけるイデオロギーの表象について研究している。 e-mail: tanaka.takuzo@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor GSC 山腰 京子 YAMAKOSHI Kyoko ☎(5224) | 第一言語習得論 First Language Acquisition | 【第一言語習得】生成文法理論に基づき、主に子供の母語習得の仕組みを探る。主なテーマは疑問文、数量詞、受身と使役など。 e-mail: yamakoshi.kyoko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor GSC ALLEN David Brian ALLEN David Brian ☎(5229) | 第二言語(英語)教育論 Second Language (English) Education Theory | 【第二言語習得研究】第二言語の語彙習得における第一言語の影響に関する研究を主とする。第二言語教育とテスト理論に基づいた評価に関する研究。言語テストの波及効果(washback)の研究もおこなっている。 e-mail: allen.david.brian@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor GSC TAKIZAWA-LOWE Robert James TAKIZAWA-LOWE Robert James ** ☎(5226) | 英語教育論 English Education Theory | 【応用言語学】ネイティブ・スピーカー主義や国際共通語としての英語など、英語教育の批判的視座に関する研究を行っている。 e-mail: lowe.robert.james@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor 橋本 陽介 HASHIMOTO Yosuke ☎(5219) | 中国近代文学論 Modern Chinese Literature | 【中国文学】現代中国語、日本語を中心とした小説言語の文法、文体論など。 e-mail: hashimoto.yosuke@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor 富 嘉吟 FU Kagin ** ☎(5216) | 中国民間文化論 Studies on Chinese Folk Culture | 【中国古典文献学】唐代を中心に、文献学的視点から古典文学を研究している。 e-mail: fu.jiavin@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor GSC 丸谷 徳嗣 MARUTANI Atsushi ** ☎(5231) | アメリカ言語文化論 American Language and Culture | 【アメリカ文学・アメリカ南部文学】20世紀の南部文学を中心に、個人・地域共同体・国家の関係を通じて、倫理・道徳について考察している。 e-mail: marutani.atsushi@ocha.ac.jp | |
| 比較社会論領域 Comparative Social Studies | | | |
| 教授 Professor 安成 英樹 YASUNARI Hideki ☎(5181) | 西洋近世史研究 Studies of Western Modern History | 【フランス近世史】絶対王政期のフランス社会をフィールドとして、前近代ヨーロッパの政治的、社会的、国際的な特質を広く考究する。 e-mail: yasunari.hideki@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor 阿部 尚史 ABE Naofumi ** ☎(5184) | イスラム歴史文化研究 Studies on Islamic History and Culture | 西アジアでもとくにイランに焦点を当て、近世・近代における家族と女性の関係、ムスリム聖者廟、少数派(アルメニア教徒)、及び文化史などを研究している。 e-mail: abe.naofumi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor 池松 辰男 IKEMATSU Tatsuo ** ☎(5165) | 基礎概念論 Analytical Studies of Basic Concepts | 【西洋哲学】近代ドイツ哲学(特にヘーゲル哲学)を軸として、人間の主体性、および倫理/政治/社会等に関する哲学的問題を研究している。 e-mail: ikematsu.tatsuo@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor 戸川 貴行 TOGAWA Takayuki ☎(5176) | アジア歴史文化研究 Studies on Asian History and Culture | 【東アジア古代史研究】漢唐間の中国を中心として、古代東アジアの政治文化、国際秩序等の展開を新たな視点からとらえ直す。 e-mail: togawa.takayuki@ocha.ac.jp | |

| 表象芸術論領域 Arts and Representational Studies | | |
|---|---|--|
| 担 当 教 員 Position Name | 授 業 科 目 Main Subject | 研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野 |
| 教授 井上 登喜子 INOUE Tokiko ☎(5281) | 音楽表象論 Musicology, Culture and Representation | 【音楽学】近現代の音楽文化形成について、社会的コンテキストのなかで、歴史的研究を行うとともに、国際的かつ時系列のデータベースを構築し、多文化横断的な実証研究に取り組んでいる。とくに上演文化、レパートリー形成、音楽活動とジェンダーの問題は、洋の東西を問わず関心をもつ。 e-mail: inoue.tokiko@ocha.ac.jp |
| 教授 小坂 圭太 KOSAKA Keita ☎(5278) | 器楽演奏論 Instrumental Music | 【ピアノ演奏】 ピアノという西欧近代特有の思考を体現するような楽器の演奏を通じ、「古典」の概念の検証を行うと同時に、ほとんど西欧化と同義語になっている今日の文化の「グローバル化」について考察する。 e-mail: kosaka.Keita@ocha.ac.jp |
| 教授 鈴木 禎宏 SUZUKI Sadahiro ☎(5798) | 比較文化論 Comparative Study of Culture | 【比較文化論】「比較文化論」という方法論を構築する一方で、それを用いた文化的事象の解明を目指す。 e-mail: suzuki.sadahiro@ocha.ac.jp |
| 教授 新實 五穂 NIMI Iho ☎(5802) | 西洋服飾論 Western Dress Cultures | 【西洋服飾論】近現代フランスを中心に、服装における社会表象を分析し、着衣行為をめぐる時代の心性を明らかにすることを旨とする。 e-mail: niimi.iho@ocha.ac.jp |
| 准教授 岡 千春 OKA Chiharu ☎(5756) | 臨床舞踊論 Theory of Clinical Dance | 【臨床舞踊学】舞踊と社会がつながる場を対象とし、そこでの舞踊の意義および課題について、具体的な事例の質的調査を通して、多角的に考察することを目指す。 e-mail: oka.chiharu@ocha.ac.jp |
| 准教授 土谷 真紀 TSUCHIYA Maki ☎(5169) | 比較芸術論 Comparative Study of Art | 【日本美術史】物語絵画、とくに中世から近世初期にかけての物語絵画を中心に、イメージの生成と享受について研究している。 e-mail: tsuchiya.maki@ocha.ac.jp |
| 准教授 中村 美奈子 NAKAMURA Minako ☎(5269) | 民族舞踊論 Ethnic Dances | 【民族舞踊学】インドネシア（バリ島）の舞踊を中心に、日本を含むアジア地域の民族舞踊の調査・研究を主な領域としている。理論と実践の両面からのアプローチを行い、舞踊記譜法などの分析手法を用いた舞踊の比較分析に関心を持っている。 e-mail: nakamura.minako@ocha.ac.jp |
| 准教授 難波 知子 NAMBA Tomoko ☎(5800) | 服飾文化資源論 Costume and Cultural Resources | 【日本服飾史】特に明治以降の服飾変遷に着目し、洋服の導入・普及とともに生じた和服の再編成・再解釈など、服飾をめぐる近代的な価値観や生活様式の形成を明らかにする。 e-mail: namba.tomoko@ocha.ac.jp |
| 講師 内山 尚子 UCHIYAMA Naoko ☎(5170) | 西洋美術論 Studies of Western Art History | 【西洋近現代美術史】20世紀のアメリカ合衆国を中心に、「マイノリティ」に分類される芸術家による移動と「他者」表象に関心を持ち研究に取り組んでいる。 e-mail: uchiyama.naoko@ocha.ac.jp |
| 助教 福本 まあや FUKUMOTO Maaya ☎(5265) | 舞踊表現論 Theory of Dance Expression | 【舞踊表現論】舞踊の教育的意義、社会的意義に関する既存の研究に整理・再検討を加え、そこから新たな研究課題と研究方法を創出し、人間と舞踊の関わりを複眼的に考察する。 e-mail: fukumoto.maaya@ocha.ac.jp |

| 人間発達科学専攻 Human Developmental Sciences | | | |
|---|--|--|---|
| 教育科学領域 Educational Sciences | | | |
| 担当 Position | 教員 Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 |
| 教授 Professor ※ | 大多和 直樹 OTAWA Naoki (5245) | 教育社会学論 Sociology of Education | 【教育社会学】学校社会学、中等教育研究(おもに生徒文化論)、メディアと教育、高等教育論(おもに学生文化)などのテーマで実証的研究を行っている。 e-mail: owata.naoki@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 浜野 隆 HAMANO Takashi (5248) | 国際教育開発論 International Development and Education | 【国際教育開発・協力】アジア・アフリカを中心とした発展途上国における教育の現状、国際機関の役割、国際協力のあり方などを具体的に検討している。研究の成果を実際の国際協力の実践に活用できるよう、現場との連携を常に念頭においている。 e-mail: hamano.takashi@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 富士原 紀絵 FUJIWARA Kie (5472) | カリキュラム論 Curriculum Studies | 【カリキュラム論・教育方法学】近現代日本の学校教育において、公的な教育内容・方法の組織された教育課程と、個々の学校レベルあるいは日々の事業の実践として展開されている教育実践、カリキュラムとの関係について研究を行っている。 e-mail: fujiwara.kie@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | 齋藤 彩 SAITO Aya (5198) | インクルーシブ教育論 Studies in Inclusive Education | 【インクルーシブ教育・特別支援教育・障害児心理学】発達障害に関連する特性をはじめ、特別な支援ニーズのある多様な子どもの教育を取り巻く諸課題、心身の発達や心理社会的適応、家族支援についての実証研究を行っている。 e-mail: saito.aya@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | 武藤 世良 MUTO Sera (5246) | 教育・発達・感情の心理学 Psychology of Education, Development, and Emotions | 【教育心理学・発達心理学・感情心理学】人の生涯にわたる学習や発達、あるいは他者との関係性において、さまざまな感情の経験や個人差がいかなる影響を与えるかを心理学的に研究している。特に①尊敬や憧れ、畏敬などの感情、②感情の定義や理論、③感情の発達や機能に関心を抱き検討している。 e-mail: muto.sera@ocha.ac.jp |
| 心理学領域 Psychology | | | |
| 教授 Professor | 上原 泉 UEHARA Izumi (5259) | 発達心理学先端研究 Advanced Studies in Developmental Psychology | 【発達心理学】認知発達(言語、記憶、実行機能、感情、遊び、退屈等)、自伝的記憶・ナラティブの生涯発達に関する研究を行っている。皆に共通する発達過程と環境や文化の影響を受けやすい発達過程に関心をもち、 e-mail: uehara.izumi@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor ○ | 大森 美香 OMORI Mika (2561) | 健康行動論 Research in Health Behavior | 【健康心理学・臨床心理学】心身の健康と心理社会的要因の関連に関する研究を主としている。特に青年期以降の(1)ヘルスリスク行動、健康促進行動、食行動、(2)感情、認知、ストレス、ストレスマネジメントの方法、に関わる問題を扱っている。 e-mail: omori.mika@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor ○ | 坂元 章 SAKAMOTO Akira (5257) | メディア心理学 Media Psychology | 【社会心理学】テレビ、デジタルゲーム、インターネット、スマートフォンなどの電子メディアによって人間の行動や発達にどのような影響があるか、悪影響を避けながらそれらを十分に活用するためにはどのように介入すればよいか。 e-mail: sakamoto.akira@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 伊藤 大幸 ITO Hiroyuki (5771) | 教育心理学研究 Educational Psychology Research | 【発達心理学・教育心理学・心理計量学】広く人の認知・感情の仕組みやその発達の過程、またその研究や解析の方法論に関心をもち、研究テーマは、①子どもの心の健康やコンピテンスの発達、②発達障害や各種心理特性のアセスメント、③縦断研究のための多変量解析手法など。臨床・教育実践や政策形成をバックアップするエビデンスの創出を志向している。 e-mail: ito.hiroyuki@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ※ | 今泉 修 IMAZUMI Shu (5534) | 認知科学論 Cognitive Science | 【認知心理学・実験心理学】人間の認知や知覚に関する行動実験を用いた研究が専門である。身体運動と認知の相互作用、自己意識や時間知覚や感情や記憶といった認知の諸側面、および認知や知覚の個人差について検討している。 e-mail: imaizumi.shu@ocha.ac.jp |
| 発達臨床心理学領域 Developmental and Clinical Psychology | | | |
| 教授 Professor | 石丸 径一郎 ISHIMARU Keiichiro (5187) | 青少年臨床論 Clinical Approach to Adolescence | 【臨床心理学】LGBTQとの共生について心理学的に検討している。特に、性別違和の測定、職場や学校での支援、認知行動療法の応用など。 e-mail: ishmaru.keiichiro@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 高橋 哲 TAKAHASHI Masaru (5772) | 非行臨床論 Juvenile Delinquency and Clinical Psychology | 【犯罪心理学】非行少年や犯罪者に対する心理学的な査定と介入について研究している。特に、①再犯リスクアセスメント、②トラウマと嗜癖的行動、③自傷と他害に関心がある。 e-mail: takahashi.masaru@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 山田 美穂 YAMADA Miho (5784) | 障害臨床論 Developmental Disabilities | 【臨床心理学】臨床実践・教育・研究における、身体を通した共感の活用について研究している。特にフォーカシングやダンス/ムーブメントセラピーの技法を用いたアセスメントおよび介入を研究テーマとしている。 e-mail: yamada.miho@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 砂川 芽吹 SUNAGAWA Mebuki (5266) | コミュニティ心理学特論 Community Psychology | 【障害児・者臨床心理学】発達障害のある子ども・人の臨床心理学的支援について研究している。特に、発達障害のある女の子・女性ならではの経験理解と支援に関心をもち取り組んでいる。 e-mail: sunagawa.mebuki@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ※ | 平野 真理 HIRANO Mari (5780) | 心理療法論 Systems of psychotherapy | 【臨床心理学・パーソナリティ心理学】個々人のもつレジリエンス(回復・適応力)を包括的に理解し、その人らしい力を発揮していけるためのアセスメント、関係を通した心理支援、ICTを活用した予防的実践などに取り組んでいる。 e-mail: hirano.mari@ocha.ac.jp |
| 社会学・社会政策領域 Sociology and Social Policies | | | |
| 教授 Professor ※ | 杉野 勇 SUGINO Isamu (5171) | 社会科学方法論 Social Science Methodology | 【理論社会学・社会調査論】紛争や階層についての理論的考察と実証的調査研究、社会科学方法論や社会調査法研究。 e-mail: sugino.isamu@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | 宝月 理恵 HOGETSU Rie (5172) | 歴史社会学 Historical Sociology | 【医療社会学・歴史社会学】社会的存在としての人々がどのように健康や病を経験したのか、医学、身体、家族、教育、専門職、ジェンダー等の視点から歴史社会学的研究を行っている。 e-mail: hogetsu.rie@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 三宅 雄大 MIYAKE Yudai (2590) | 社会福祉政策論 Social Welfare Policy | 【社会政策・社会福祉学】法・行政資料等に基づく制度研究、ならびに、当事者(生活保護制度の利用者等)を対象とした調査研究を通じて、社会保障制度(とりわけ公的扶助)の在り方を追究している。 e-mail: miyake.yudai@ocha.ac.jp |
| 保育・児童学領域 Child Studies | | | |
| 教授 Professor | 刑部 育子 GYOBU Ikuko (5527) | 幼児教育論 Early Childhood Education | 【幼児教育学・発達心理学】保育・教育実践の現場に関心をもち、学習論・発達論の観点から保育・教育に関する実践的研究を行っている。 e-mail: gyobu.ikuko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor ※ | 西 隆太郎 NISHI Ryutarō (5826) | 保育関係論 Relations in Early Childhood Care and Education | 【保育学・臨床心理学】保育とは、人と人との関係によって成り立つ営みであり、またその関係は子どもと大人がともに育つ相互的な性質をもっている。こうした保育的関係の中に自ら身を置く体験をもとに、保育学・精神分析学的な事例研究の方法論を用いた研究を行っている。 e-mail: nishi.ryutarō@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 辻谷 真知子 TSUJITANI Machiko (5270) | 保育心理学 Childcare Psychology | 【保育学・発達心理学】保育の場での子どもや保育者からみた多様な規範に関心をもち、目の前の保育実践から学びつつ観察・面接・質問紙調査等の心理学的手法を基盤とした研究を行っている。 e-mail: tsujitani.machiko@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | 松島 のり子 MATSUSHIMA Noriko (5253) | 保育史論 History of Early Childhood Education and Care | 【保育制度・政策史】保育・幼児教育に関する制度・政策の変遷や形成過程、全国的な動向と地域における実態を対象として、歴史研究を行っている。 e-mail: matsushima.noriko@ocha.ac.jp |

| ジェンダー学際研究専攻 Interdisciplinary Gender Studies | | ジェンダー論領域 Interdisciplinary Gender Studies | |
|--|--|--|--|
| 担当教員 Position | Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 |
| 教授 Professor | 大森 正博 OMORI Masahiro ☎(5987) | 生活者環境論 Social Science in Human Environments | 【公共経済学・医療経済学】医療・介護制度を資源配分、所得分配の観点から分析し、望ましい医療・介護制度のあり方を考える。医療・介護制度の国際比較も行う。 e-mail: omori.masahiro@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 倉光 ミナ子 KURAMITSU Minako ☎(2612) | 地域研究論 Area Studies Methodology | 【文化地理学、オセアニア地域研究】最近の研究関心は、オセアニア地域研究、特にグローバル化によるジェンダーと慣習への影響、移民女性の子育てなど。主なフィールドはサモアとニュージーランド。 e-mail: kuramitsu.minako@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 小谷 眞男 KOTANI Masao ☎(5787) | 比較法社会論 Comparative Studies on Society and Law | 【比較法史】<生活>の比較法社会史・比較法文化史及びトランス・サイエンス論研究。特にイタリアを専門的フィールドとする。 e-mail: kotani.masao@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 齋藤 悦子 SAITO Etsuko ☎(5986) | 生活経済論特論 Household Economics | 【生活経済学、生活経営学】家計、生活時間をジェンダーの視点から分析する。特に雇用労働者世帯を扱い、企業と生活者の関係性に注目している。現在は、生活者が「企業の社会的責任」に関係していくかを検討している。 e-mail: saito.etsuko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 申 琪榮 SHIN Ki-young ☎(5843) | 比較政治論 Comparative Politics | 【ジェンダーと政治、日韓比較政治、フェミニズム理論】女性運動の日韓比較、ジェンダー・クォーター、ジェンダー主流化政策、Transnational Feminismなど、ジェンダー・フェミニズムの視点から比較政治学の問いに取り組む。 e-mail: shin.kiyoung@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 西村 純子 NISHIMURA Junko ☎(5788) | 家族変容論 Family Sociology | 【家族社会学】家族関係の変容とそのダイナミクスに関する実証的研究。特に、仕事と家族生活、子育てに関わる現象についての社会学的研究をおこなっている。 e-mail: nishimura.junko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 長谷川 直子 HASEGAWA Naoko ☎(5196) | 環境地理学 Environmental Geography | 【自然地理学・気候学】気候変動（とくに温暖化）が湖に与える影響の解明。諏訪湖の結氷記録より過去の気候変動を解明する。環境問題や地理的視点の一般社会への普及の検討。 e-mail: hasegawa.naoko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 宮澤 仁 MIYAZAWA Hitoshi ☎(5195) | 福祉地理学 Welfare Geography | 【都市地理学、福祉地理学、地理情報システム (GIS)】人口減少・少子高齢化に伴う都市・地域の問題を地理情報システムと地域分析手法を用いて分析し、生活・福祉の視点から課題解決に取り組む。 e-mail: miyazawa.hitoshi@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 大橋 史恵 OHASHI Fumie ☎(5341) | ジェンダー政治経済学 Gender and Political Economy | 移住家事・ケア労働者の就労や生存をめぐる諸課題や彼女たちの社会運動について、主に中国・香港・台湾・日本でフィールドワークをおこないながら研究を進めている。またポスト冷戦期東アジアのジェンダー秩序や、そのなかで生起するトランスナショナルなフェミニズム運動にも関心をもっている。 e-mail: ohashi.fumie@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | キャロル マイルズ CARROLL Myles ☎(5191) | グローバル資本主義論 Global Capitalism | 【日本の政治経済・国際政治経済・環境学】日本を中心に、戦後以降の政治経済秩序をめぐる理論研究、社会的再生産論を含めフェミニスト政治経済理論、政治経済の観点から気候変動が資本主義社会に与える影響や課題についての研究を行なっている。 e-mail: myles.carroll@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 申 知燕 SHIN Jiyeon ☎(5188) | 地域分析論 Regional Analysis | 【人文地理学・移民研究】国際移住による都市空間の変容に関する実証的研究を行う。主に外国人や女性、性的マイノリティなど、社会的マイノリティのトランスナショナルな移住と都市生活に焦点を当て、アメリカ・イギリス・日本・韓国の事例を分析する。 e-mail: shin.jiyeon@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | デ アウカンタラ マルセロ DE ALCANTARA Marcelo ☎(2084) | 比較家族法論 Comparative Family Law | 【家族法・比較法】親子法について、特に生殖補助医療に関連して生じた諸問題に関する研究を行っている。日本の家族法と諸外国の家族法との比較研究も行っている。家族法と国際化、家族法とジェンダーの問題にも関心がある。 e-mail: marcelo.de.alcantara@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 豊福 実紀 TOYOFUKU Miki ☎(5791) | 公共政策論 Public Policy | 【日本政治・比較政治・公共政策】政治学の観点から公共政策の研究を行っており、とくに女性の働き方にかかわる租税政策に注目している。 e-mail: toyofuku.miki@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 脇田 彩 WAKITA Aya ☎(5794) | 社会的不平等論 Social Inequalities | 【社会調査法、社会階層論、ジェンダー論】社会階層やジェンダー等の属性による社会的不平等について、計量社会学の手法を用いながら研究を行う。職業とジェンダーの関連のほか、最近では地域内の社会階層と属性による格差にも注目している。 e-mail: wakita.aya@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | 王 一瓊 WANG Yiqiong ☎(5260) | 多言語社会論 Sociolinguistics of Multilingual Societies | 【社会言語学、言語社会学】「ことばと社会」及び「ことばと教育」の関係性を批判的視点から再考する。多言語多文化のダイナミクスを踏まえながら、政策制度や社会構造が言語使用に及ぼす影響を考察し、社会的排除と包摂のメカニズムを理論的・実証的に探求する。 e-mail: wang.yiqiong@ocha.ac.jp |

| ライフサイエンス専攻 Life Sciences | | 生命科学領域 Biological Sciences | |
|---|---|--|--|
| 担当教員 Position Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 | |
| 教授 GSC Professor UMEMURA Tomohiro ☎(5713) | 植物オルガネラ動態学 Plant organelle dynamics | 【細胞膜機能学】真核細胞のオルガネラの膜ダイナミクスと生理機能を明らかにする。ライブイメージングによる観察によって研究を進める。 e-mail: uemura.tomohiro@ocha.ac.jp | |
| 教授 Professor KIYOMOTO Masato ☎0470-29-0838 | 発生機構学 Developmental Mechanics | 【発生生物学】棘皮動物を材料に、初期発生における細胞の分化や形態形成のメカニズムを明らかにする。具体的には、ウニ胚の骨片形成細胞の分化における誘導因子や細胞間の相互作用について、培養系を使って研究している。 e-mail: kiyomoto.masato@ocha.ac.jp | |
| 教授 GSC Professor SHIMADA Satoshi ☎(5356) | 構造植物科学 Structure of Plant Sciences | 【多様性生物学】どの様な生物種がどれほどの地球上に存在しているのか?そもそも、どうやって生物は多様化してきたのか?という生物多様性に関する素朴な疑問を明らかにしたいと考えている。 e-mail: shimada.satoshi@ocha.ac.jp | |
| 教授 GSC Professor HATTA Masayuki ☎(5579) | 生物圏科学 Biosphere Science | 【進化生態遺伝学】海洋動物の進化史を遺伝・生態の側面から明らかにする。サンゴ礁生物の多様性やサンゴ礁修復技術についても研究している。 e-mail: hatta.masayuki@ocha.ac.jp | |
| 教授 GSC Professor YURA Kei ☎(5514) | 計算構造生物学 Computational Structural Biology | 【生命情報学】タンパク質立体構造座標、タンパク質などの相互作用情報が膨大に収集されるようになった。これらの情報を利用して、酵素などの分子進化や生物腫の適用進化などを、計算生物学的に明らかにしていくことを目指す。 e-mail: yura.kei@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor ** IWASAKI Takaya ☎(5373) | 植物進化多様性科学 Plant Diversity and Evolution | 【植物進化多様性科学】野生植物の多様性を形成した進化史、そして現在の多様性を維持している生態メカニズムの解明を目的として、様々な野生植物を用いた研究を進めている。特に生物の分布に着目した生物地理学をベースに研究を展開している。 e-mail: iwasaki.takaya@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor ** KONDO Rumi ☎(5372) | 進化多様性 Evolution and Diversity | 【ゲノム進化・進化遺伝学】生態や行動の多様性が生じるしくみを分子レベルで理解することを目的として、ショウジョウバエをモデル生物に用いて研究している。 e-mail: kondo.rumi@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor ** SATO Atsuko ☎(5377) | 先端動物学 Frontier Zoological Approach in Life Science | 【発進進化学】生物の発生が環境に反応してどう変化し、どう進化するのか。大量データ解析と発進進化的手法を用いて解明する。 e-mail: sato.atsuko@ocha.ac.jp | |
| 准教授 Associate Professor SHIBA Kogiku | 分子細胞生物学 Molecular Cell Biology | 【分子細胞生物学】海産無脊椎動物を実験材料とし、精子鞭毛や繊毛の運動調節メカニズムに関する研究を行っている。 e-mail: shiba.kogiku@ocha.ac.jp | |
| 講師 Lecturer ** ITO Yoko | 植物オルガネラ動態学 Plant organelle dynamics | 【細胞生物学】真核細胞の生命の根幹を担うオルガネラの形成・維持メカニズムや、そこに関与する膜交通の動態を明らかにすることを目的として、主に植物細胞を材料としたライブイメージングによる研究を行っている。 e-mail: ito.yoko@ocha.ac.jp | |
| 助教 Assistant Professor ** MONAI Hiromu ☎(5303) | 生体応答ダイナミクス Dynamics in Biological Responses | 【生体組織機能学】脳が生きているとはどういうことか?生きた脳組織が機能する基礎原理について、非シナプスの相互作用の観点から解明を試みている。 e-mail: monai.hiromu@ocha.ac.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor ONO Yasuko (東京都医学総合研究所) | シグナル伝達機構 Biological Signaling Mechanism | 細胞内の調節的タンパク質切断酵素「カルパイン」の生理機能と構造機能相関について研究している。 e-mail: ono-ys@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor MASAI Hisao (東京都医学総合研究所) | | 【分子生物学】ゲノム複製の分子メカニズムの解明を基盤に、ゲノムの継承、安定性維持のメカニズム、その破綻によるがん細胞の形成などについて研究している。ゲノムの新しい機能シグナルとしての、グアニン4重鎖構造など、非標準型DNA構造の生物学的意義の解明も目指している。 e-mail: masai-hs@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor MARUYAMA Chiaki (東京都医学総合研究所) | | 【神経発生学】脳神経回路が胎児期にどのように発生するのか、また哺乳類と非哺乳類での脳構造の違いやその進化のメカニズムについて、分子発生的、比較進化的観点から研究している。 e-mail: maruyama-ck@igakuken.or.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor Martin Frith (国立研究開発法人 産業技術総合研究所) | ゲノム情報学 Genome Informatics | 【ゲノム情報学】コンピューターを利用した統計モデルにもとづき、比較ゲノミクスの手法を用いて、ゲノム塩基配列から機能および進化に関する情報を読み解く研究を進めている。 e-mail: m.frith@aist.go.jp | |
| 客員教授 Visiting Professor YAMANO Koji (東京都医学総合研究所) | オルガネラ品質管理 Organelle Quality Control | 細胞内のオルガネラの品質管理がどのように制御されているのか、その分子メカニズムを細胞生物学と生理学で明らかにし、新しい機構を同定することで、老化や神経疾患の根本的理解を目指す。 e-mail: yamano-k@igakuken.or.jp | |
| 客員准教授 Visiting Associate Professor MIYAOKA Yuichiro (東京都医学総合研究所) | | ヒトiPS細胞の遺伝情報をゲノム編集により操ることで、遺伝性疾患の発症機序解明と治療法開発を目指す。 e-mail: miyaoka-yi@igakuken.or.jp | |
| (教授 Miyamoto Masato ☎(5514)) | 生体分子科学 The Structure and Function of Biomolecules | 担当専攻「理学専攻」 化学・生物化学領域 糖鎖生物化学と同じ | |

| ライフサイエンス専攻 Life Sciences | | 食品栄養科学領域 Food and Nutritional Sciences | |
|---------------------------------------|---|--|---|
| 担当 Position | 教員 Name | 授業科目 Main Subject | 研究テーマ又は研究分野 |
| 教授 Professor | 赤松 利恵 AKAMATSU Rie ☎(5680) | 食行動学 Eating Behavior | 【栄養教育学】人の食行動に関わる要因について、心理社会的観点から検討し、よりよい生活習慣を獲得するための方法を研究している。 e-mail: akamatsu.rie@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 飯田 薫子 IIDA Kaoruko ☎(5474) | 栄養臨床医学・疫学 Lecture on Clinical Nutrition | 【病態栄養学、生活習慣病学】生体内における栄養素の代謝機構を中心に、生活習慣病との関連性から研究を行っている。 e-mail: iida.kaoruko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 市 育代 ICHI Ikuyo ☎(5750) | 臨床栄養学 Clinical Nutrition | 【臨床栄養学】脂質の代謝異常は生活習慣など様々な疾患の発症に関わっている。病態における脂質の変動と疾病との関連について研究を行っている。 e-mail: ichi.ikuyo@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 須藤 紀子 SUDO Noriko ☎(5448) | 国際公衆栄養学 International Public Health Nutrition | 【公衆栄養学】国内外の非常時の食生活支援のための体制整備に関する研究を行っている。 e-mail: sudo.noriko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 新田 陽子 NITTA Yoko ☎(5760) | 嗜好性設計学 Advanced Cookery Science | 【調理科学、食品物性学、酵素学】食品物性や生理活性アミンについての研究を行なっている。 e-mail: nitta.yoko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | 森光 康次郎 MORIMITSU Yasujiro ☎(5757) | 食品生理機能学 Food Functionality | 【食品機能化学】近年、食品起源の生体調節機能性因子が注目され、その重要性が広く一般にも認識されるようになった。身近となった抗酸化物質から生活習慣病予防効果を示しうる食用植物由来の生理活性物質について、有機化学的・生化学的研究を中心に行っている。 e-mail: morimitsu.yasujiro@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 佐藤 瑠子 SATO Yoko ☎(5754) | 給食品質管理論 Quality control of food service | 【給食経営管理論】給食を生産する際の調理・保管過程における食品の物理的・化学的な変化を把握し、品質管理手法を提案するための研究を行なっている。 e-mail: sato.yoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | 清水 誠 SHIMIZU Makoto ☎(5752) | 応用栄養学 Applied Nutrition | 【分子栄養学】運動や老化、栄養などに関わる生体内分子や機能性食品成分に着目し、これらの機能や相互作用に関する研究を行っている。 e-mail: shimizu.makoto@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | ** 小林 正樹 KOBAYASHI Masaki ☎(5943) | 栄養制御学 Nutritional Regulation | 【基礎栄養学】栄養環境や加齢・老化が身体に及ぼす影響に関して、主に動物や細胞を用いた研究を行っている。 e-mail: kobayashi.masaki2@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor | ** 野田 響子 NODA Kyoko ☎(5753) | 食品貯蔵学 Food Preservation | 【食品貯蔵学】食品の加工、貯蔵中に起こる嗜好性、安全性に関わる変化について、化学的研究を行っている。 e-mail: noda.kyoko@ocha.ac.jp |
| 客員教授 Visiting Professor | (未定) | 食品安全管理学 Food Safety | 【食品安全管理学】カビ毒を含めた食品の安全管理に関する研究。 e-mail: |
| 客員准教授 Visiting Associate Professor | 鈴木 忠宏 SUZUKI Tadahiro (農業・食品産業技術総合研究機構) | 食品バイオテクノロジー Food Biotechnology | 【食品バイオテクノロジー】食品の技術開発（衛生管理、リスク検出・低減、加工技術等）に関する研究を行っている。 e-mail: suzut@affrc.go.jp |
| 遺伝カウンセリング領域 Genetic Counseling | | | |
| 教授 Professor | 三宅 秀彦 MIYAKE Hidehiko ☎(5587) | 遺伝カウンセリング論 Guide to Genetic Counseling | 【臨床遺伝医学、遺伝カウンセリング学】出生前診断など、遺伝に関わる課題に対して、遺伝カウンセリングや医療者教育、社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: miyake.hidehiko@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | ** 佐々木 元子 SASAKI Motoko ☎(5742) | ゲノム遺伝学 Genetics and Genomics | 【遺伝カウンセリング学、遺伝教育】遺伝カウンセリング全般に対する問題と、遺伝教育や社会啓発に関する研究を行っている。 e-mail: sasaki.motoko@ocha.ac.jp |

| 理学専攻 Advanced Sciences | | | |
|--|--|---|--|
| 数学領域 Mathematics | | | |
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position Name | Main Subject | | |
| 教授 Professor SHIMOKAWA Koya ☎(5310) | 位相幾何学 Topology | 【トポロジーとその応用】結び目理論と3次元多様体論は活発に研究が行われているトポロジーの分野である。それらの研究と、高分子科学、超分子化学、材料科学への応用の研究を行っている。 | |
| 教授 Professor TAKEMURA Kouichi ☎(5298) | 数理解析論 Mathematical Analysis | 【可積分系、特殊関数】可積分系と関係する複素変数の微分方程式や差分方程式の研究を行い、特定の系に対する理解の深化などの応用を目指す。関連して、楕円関数や超幾何関数に代表される特殊関数自体の研究も行う。 | |
| 教授 Professor 萩田 真理子 ☎(2712) | 組み合わせ構造論 Combinatorial Structure | 【離散数学】M系列、差集合、ブロックデザイン、符号などの離散構造の存在性についての理論研究と、グラフ彩色、疑似乱数、暗号など情報セキュリティのための離散数学の応用研究を行っている。 | |
| 教授 Professor 横川 光司 ☎(5357) | ホモトピー数学 Homotopical Mathematics | 従来の等号をベースにした数学から同値をベースとしたものへ移行したものがホモトピー数学である。ホモトピー数学により、これまで見えていなかった数学構造が捉えられる。研究テーマはこのホモトピー数学の論理的基礎づけとその幾何学への応用である。 | |
| 准教授 Associate Professor KUBO Takayuki ☎(5300) | 関数解析論 Functional Analysis | 流体力学などに現れる現象を記述する様々な偏微分方程式に関する数学解析を行っている。フーリエ解析や、関数解析的・数値解析的な手法で現象の数学的理解を目指す。 | |
| 准教授 Associate Professor SHINODA Mao ☎(5306) | 確率解析論 Stochastic Analysis | 【エルゴード理論】力学系における不変測度、とくに平衡測度や最大化測度と呼ばれる不変測度の研究を行なっている。さまざまな力学系における位相的な性質と不変測度の関連の研究を目指す。 | |
| 准教授 Associate Professor TIBA Yusaku ☎(5311) | 大域解析学 Global Analysis | 一変数正則関数とは異なり、多変数正則関数はハルトクス現象といった特有の性質をもつ。このような興味深い性質を、シュタイン多様体やコンパクトケーラー多様体などの幾何学的な視点から研究する。 | |
| 准教授 Associate Professor GSC ツァン・シンイー TSANG Sin Yi ☎(5301) | 代数構造論 Algebraic Structures | 【群論・Skew brace論】群のholomorphやskew braceと呼ばれる代数的構造を中心に研究を行なっている。 | |
| 准教授 Associate Professor TODA Masahito ☎(5305) | 大域幾何構造論 Global geometry | 位相構造など空間の大域的性質を距離構造や複素構造などの空間上の幾何構造との関連から研究する。多様体などの位相構造の分類を行なうことを目的として、幾何構造上で展開される解析学を援用して、空間に生ずる特異性の解析を行なう。 | |
| 講師 Lecturer UEKI Jun ☎(5309) | 数理多様体構造論 Mathematical Theory of Manifolds | 【数論的位相幾何学】素数と結び目、代数体の整数環と3次元多様体の類似性に端を発する様々な研究を行っている。 | |

| 理学専攻 Advanced Sciences | | | |
|--|--|--|--|
| 物理科学領域 Physics | | | |
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position Name | Main Subject | | |
| 教授 Professor OKUMURA Ko ☎(5321) | ソフトマテリアルズの物理 Physics of Soft Materials | 【ソフトマター物理・化学物理】理論と実験の両面から、ゲル、液晶、破壊、粘弾性、表面張力、濡れ、粉粒体などをキーワードにソフトマター物理学の研究をしている。場の理論、経路積分、非平衡統計力学などの手法を基礎にした、溶液の多次元レーザー分光理論もひとつの研究の柱である。 | |
| 教授 Professor GSC 河野 能知 KONO Takanori ☎(2057) | 高エネルギー物理 High Energy Physics | 【素粒子物理学実験】CERNで行われている高エネルギー陽子・陽子衝突実験ATLASに参加して、最高エネルギーでの素粒子現象の測定および新粒子の探索などの研究を行っている。また半導体飛跡検出器の開発も行っている。 | |
| 教授 Professor KOBAYASHI Katsuyoshi ☎(5314) | ナノスケール物理 Nano-Scale Physics | 【メソからナノスケールの物理、表面物理】最近の微細加工技術や走査プローブ顕微鏡等の進歩により、原子やナノスケールでの物性測定や人工構造物の作成が可能になった。このスケールに特有の新たな物理現象を探る目的で理論的な立場から研究を行っている。 | |
| 教授 Professor GSC 曹 基哲 CHO Gi-Chol ☎(5330) | ゲージ理論 Gauge Theory | 【素粒子物理学理論】電弱相互作用、強い相互作用を記述するゲージ理論に基づき、高エネルギー領域における素粒子現象を研究する。超対称性の存在、質量の生成機構、高次元空間の可能性等を検証するための研究も行う。 | |
| 教授 Professor GSC 出口 哲生 DEGUCHI Tetsuo ☎(5322) | 非線形現象解析 Analysis of Nonlinear Phenomena | 【数理論理学・物性基礎論】非線形性は多様な自然現象の中で重要な役割を果たす。非線形性のために系は単なる部分の和でない、全体として特有の性質を示す。リトンの逆散乱法やベータ仮説法などの数理論理学的手法を用いて、水面の波動、量子スピン系の厳密解、結び目と物理、高分子など幅広いテーマを総合的に研究する。 | |
| 教授 Professor GSC 古川 はづき FURUKAWA Hazuki ☎(5317) | 強相関物理 Strongly correlated electron system | 【強相関電子系の研究】強相関電子系物理という視点から、(1)空間反転対称性の破れた超伝導体LaNiC ₂ の特異電子状態、(2)重い電子系超伝導体CeCoIn ₅ の磁性と超伝導の相互関係、(3)銅を含まない酸化物超伝導体Sr ₂ RuO ₄ 系の超伝導対称性を研究する。 | |
| 准教授 Associate Professor KITAJIMA Sachiko ☎(5941) | 統計物理学 Statistical Physics | 【量子情報・非平衡統計力学】量子情報の理論的研究を行う。また、非平衡ダイナミクスの視点から量子系の基礎的諸問題の解明に取り組む。 | |
| 准教授 Associate Professor SODA Minoru ☎(5319) | 応用物性科学 Applied Condensed Matter Science | 【固体物性】磁性・強相関電子系における実験的研究を行う。磁気秩序と強誘電性が共存するマルチフェロイクスの起源解明や幾何学的フラストレーション磁性体・低次元磁性体等における新規磁性相の探索に取り組む。 | |
| 講師 Lecturer 赤城 裕 AKAGI Yutaka ☎(5326) | 統計物理学 Statistical Physics | 【物性物理学(理論)】場の理論等の知見を活かし、数値計算も駆使しながら、物性物理学を中心とした理論研究を行っている。とりわけ、トポロジカル磁性-非自明なトポロジーが本質的な役割を果たす磁性-1つの主要なテーマとしつつ、最近では素粒子論や量子情報等にも関わるような、学際的研究領域のテーマにも興味を持って研究に取り組んでいる。 | |
| 講師 Lecturer 高橋 遼 TAKAHASHI Ryo ☎(5934) | 応用物理科学 Applied Physics | 【スピントロニクス】スピン流を生成する、あるいはスピン流を起因・仲介とする新規物性現象の発現に向け、実験的研究を行っている。微細加工により作製した薄膜やマイクロ回路構造を用い、特に低次元金属を対象とした、力学運動が有する角運動量とスピン流の相関効果も研究する。 | |
| 講師 Lecturer 藤田 智弘 FUJITA Tomohiro ☎(5312) | 宇宙天体物理学 Space and Astrophysics | 【宇宙天体物理学】我々の住む宇宙で起る様々な現象を現代物理学を駆使して解明していく。特に宇宙の始まりや、その構成要素、成り立ちなどを調べる宇宙論の理論研究に重点を置き、天文観測や地上実験も援用しながら世界をリードする研究を目指す。 | |

| 理学専攻 Advanced Sciences | | Chemistry and Biochemistry | |
|----------------------------------|---|--|---|
| 担当教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 | |
| Position | Name | Main Subject | |
| 教授 Professor ○ | GSC 相川 京子 AIKAWA Kyoko ☎(5345) | 糖鎖生物学 Glycobiology | 【糖鎖生物学・細胞生物学】糖鎖修飾によるタンパク質の細胞内局在や分泌性、生理活性の調節機構の解析と、レクチンの生理機能の探索を行う。 e-mail: aikawa.kyoko@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor ○ | GSC 近藤 啓啓 KONDO Toshihiro ☎(5347) | ナノ界面化学 Nano-Interfacial Chemistry | 【ナノ界面物理化学・分析電気化学】電気化学反応(電極/溶液界面の電子移動反応)を定量的に理解することおよび燃料電池やセンサなどのナノテクノロジーにつながる分子デバイスを構築することを目的として、原子・分子のレベルで構造制御した界面を構築し、電子移動反応を追跡するとともに、界面の構造変化をその追跡する。 e-mail: kondo.toshihiro2@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 棚谷 綾 TANATANI Aya ☎(2716) | 超分子構造化学 Advanced Supramolecular Chemistry | 【構造有機化学・医薬化学】芳香族有機分子の立体特性や集合体形成を基盤として、新規機能性分子を創製する。また、生理活性物質の設計、合成へと応用し、疾患治療を目指したケミカルバイオロジー研究をおこなう。 e-mail: tanatani.aya@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor ※ | GSC 宮崎 尠彦 MIYAZAKI Mitsuhiro ☎(5717) | 分子分光化学特論 Molecular Spectrochemistry | 【物理化学・分子分光学】分子間の凝集構造の解明、分子運動・化学反応のダイナミクスについて、分光測定を主たる手段とした実験的研究を行う。複数のレーザー光を利用した電子・振動分光、時間分解分光を気相分子クラスターに適用し、理論計算も援用しつつマイクロな視点から化学現象の解明を目指す。新たな分光法、光源の開発など新規研究手法の開発にも取り組む。 e-mail: miyazaki.mitsuhiro@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 矢島 知子 YAJIMA Tomoko ☎(5715) | 機能性有機化学 Functional Organic Chemistry | 【合成有機化学・有機フッ素化学】新規有機合成法を開発し、その手法を用いて合成した化合物の機能の探索を行う。特に有機フッ素化合物に着目し、医薬品、機能性有機材料等への応用を目指す。 e-mail: yajima.tomoko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | GSC 伊村 くらら IMURA Clara ☎(5291) | ナノ構造材料化学 Nanostructured Material Chemistry | 【機能性ナノ材料・コロイド・界面化学】界面化学の観点から、触媒材料、光学材料へとつながる金属ナノ結晶の形態制御とその機構解明を行う。さらに、分子間相互作用にもとづく低分子化合物とのハイブリッド材料を構築し、分野横断的なアプローチからの新規な機能性開拓にも積極的に取り組む。 e-mail: imura.clara@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | GSC 大金 賢司 OHGANE Kenji ☎(5731) | 細胞機能化学 Cellular Biochemistry | 【ケミカルバイオロジー・生命科学】ユニークな生物活性を有する低分子化合物の探索を通して、生命現象を分子レベルで理解し、制御する方法の開発を目指す。 e-mail: ohgane.kenji@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | GSC 桑原 拓也 KUWABARA Takuya ☎(5350) | 物理有機化学 Physical Organic Chemistry | 【典型元素化学・有機金属化学】典型元素の特性を活かした新奇芳香族・反芳香族化合物の合成と性質解明に取り組む。また、高価な遷移金属にしかみられない反応性や触媒反応を安価な典型元素化学種でも実現させることを目指す。 e-mail: kuwabara.takuya@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | GSC 近松 彰 CHIKAMATSU Akira ☎(5335) | 固体物理化学 Physical Chemistry of Solids | 【固体物性化学・固体反応化学・機能材料化学】原子レベルで制御する結晶成長法に様々な化学反応を組み合わせて、新しい機能性を持った固体物質を創出する研究を行う。また、先端分析技術や理論計算を活用し、化学反応機構・物性発現機構を解明する研究にも取り組む。 e-mail: chikamatsu.akira@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor ** | GSC 三宅 亮介 MIYAKE Ryosuke ☎(2649) | 機能性錯体化学 Advanced lecture on functional coordination chemistry | 【錯体化学・超分子化学】金属錯体をデザインし、さらに構造変換に基づき物性変換することにより省エネルギー・高効率の機能創出を目指しています。分子レベルでの観測・理解に基づいて、精密な機能設計・制御を行います。特に構造特性やデザイン性に着目してペプチド金属錯体結晶を軸に研究を進めています。 e-mail: miyake.ryosuke@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer ** | GSC 平野 泰弘 HIRANO Yasuhiro ☎(5346) | 細胞機能化学 Cellular Biochemistry | 【分子生物学・バイオイメージング】生命の設計図である遺伝情報を細胞が維持し、次世代に継承する仕組みを明らかにすることに挑戦しています。タンパク質や脂質分子がその生理機能を発揮するメカニズムを明らかにするとともに、様々な顕微鏡技術を駆使して細胞核の中で起こる多様な化学反応をダイナミックに捉え、見て理解する生物化学を展開しています。 e-mail: hirano.yasuhiro@ocha.ac.jp |
| 助教 Assistant Professor ** | GSC 黒木 菜保子 KUROKI Nahoko ☎(5348) | 複雑系分析化学 Analytical Chemistry of Complex Systems | 【理論化学・計算化学・溶液物理化学】機能性溶液の性質を理解するための分子シミュレーションを推進しています。溶液内のエネルギーや電子状態のゆらぎを可視化し、環境化学や生命科学を支える分子挙動の解明や新材料の開発を目指しています。 e-mail: kuroki.nahoko@ocha.ac.jp |

| 理学専攻 Advanced Sciences | | 情報科学領域 Computer Science | |
|----------------------------|--|--|---|
| 担当 | 教員 | 授業科目 | 研究テーマ又は研究分野 |
| Position | Name | Main Subject | |
| 教授 Professor | GSC 浅井 健一 ASAI Kenichi ☎(5388) | プログラム変換論 Program Transformation | 【プログラミング言語】部分評価を始めとするプログラム変換、部分継続の理論と応用、型理論、プログラムの正当性の証明、自己反映言語など、おもしろい関数型言語に軸足を置いたプログラミング言語の理論と応用について研究を行っている。 e-mail: asai@is.ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 伊藤 貴之 ITO Takayuki ☎(5700) | 画像情報論 Visual Informatics | 【情報可視化】情報を画面上でビジュアルに表現する諸技術について研究する。具体的な適用事例として、科学技術や社会現象の理解、機械学習やデータサイエンスの支援、画像・音楽・文章などの各種メディアの対話的分析などを目的とした情報可視化について研究する。 e-mail: itot@is.ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 小口 正人 OGUCHI Masato ☎(5379) | 情報ネットワーク論 Information Network | 【ネットワークコンピューティング】ネットワークにより接続された種々の計算機資源を互いに連携させ、高度なデータ処理を行うためのネットワークコンピューティング・ミドルウェアの研究を行う。 e-mail: oguchi@is.ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 工藤 和恵 KUDO Kazue ☎(5380) | 量子情報科学論 Quantum Information Science | 【量子コンピューティング、統計力学】量子コンピュータまたはイジングマシンを利用した計算による研究、および量子ダイナミクスの研究を行っている。 e-mail: kudo@is.ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 小林 一郎 KOBAYASHI Ichiro ☎(5708) | 知能情報処理論 Advanced Intelligent Information Processing | 【知能情報処理、言語情報処理】近年、知的といわれるコンピュータシステムをつくるのに、言語など様々なモダリティがメディアとして活用され、その役割が大きくなってきている。本講義では知的な情報サービスを実現するために言語を中心とするメディアがどのように表現され、知的な情報処理として利用されるのかについて考察する。また、Web上などで実現されてきている意味を対象にした情報処理技術についても議論する。 e-mail: koba@is.ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 戸次 大介 BEKKI Daisuke ☎(5378) | 情報構造解析論 Advanced Applied Analysis | 【数理言語学】自然言語の、主に統語論、意味論、語用論に対して、記号論理、ラムダ計算、圏などの数理論理的アプローチを用いた分析を行っている。 e-mail: bekki@is.ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 五十嵐 悠紀 IGARASHI Yuki ☎(5398) | ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論 Human-Computer Interaction | 【ヒューマンコンピュータインタラクション、グラフィックス】人間とコンピュータの対話手段であるHCI技術について、生活空間で誰もが利用可能な未来のコンピュータのあり方を研究する。また、グラフィックス表現を用いた支援技術についても研究する。 e-mail: yuki@is.ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC オベル加藤 ナタナエル Nathanael AUBERT-KATO ☎(5773) | 分子ロボティクス論 Molecular Robotics | 計算能力を持つ化学反応ネットワークのシミュレーションと分析を行なっている。また、そういうシステムの設計のため、進化的戦略アルゴリズムを研究している。 e-mail: naubertkato@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 桑名 杏奈 KUWANA Anna ☎(5396) | 数値シミュレーション論 Numerical Simulation | 【数値流体力学】流体現象に対する数値計算、および数値計算の手法に関する研究を行う。 e-mail: kuwana.anna@is.ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 坂田 綾香 SAKATA Ayaka ☎(5386) | 統計数理論 Statistical Mathematics | 【統計的機械学習、統計物理】統計物理の視点から、統計学や機械学習の課題を研究している。統計モデルの性能評価や、推論アルゴリズムの開発を通して、統計的機械学習の理論的理解を深めることを目指す。 e-mail: ayakasakata@is.ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 長尾 篤樹 NAGAO Atsuki ☎(5384) | 計算複雑性理論 Theory of Computational Complexity | 【計算量理論、アルゴリズム論】我々の生活に存在する実問題の多くは離散的なモデルで表現することができるが、それらの最適解を現実的な計算リソースで求める事が難しい場合がほとんどである。解決という行為が、扱う問題や使用可能な計算資源によってどのような違いがあるのかを解析し、また、特定の問題に対してより効率的なアルゴリズムの開発、その理論的保障の解析を行う。 e-mail: a-nagao@is.ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC LE Hieu Hanh LE Hieu Hanh ☎(5235) | データ管理活用論 Data Management and Application | 【データ管理活用論】多種大量なデータを蓄積し有効に活用することが求められる中、信頼性の高いデータ格納方法や高速なデータ処理および高度なデータ分析等を実現するために、データ管理活用に関する研究を行う。 e-mail: le@is.ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | GSC 神山 翼 KOHYAMA Tsubasa ☎(5384) | 気象数理論 Mathematics in Meteorology | 【気象学・物理気候学・大気海洋データ解析】地球の気象・気候の現在の姿とふるまいはどのように決定されているのかについて、特に応用数学・情報科学的視座から明らかにすることを旨とする。 e-mail: tsubasa@is.ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | GSC 室屋 兎子 MURUYA Koko ☎(5383) | 書換え系論 Rewriting | 【プログラミング言語理論・プログラム意味論】プログラム実行の多角的な数理モデリングを通じて、プログラムの振る舞いを数学的かつ厳密に比較・説明するための研究を行っている。 e-mail: kmuroya@is.ocha.ac.jp |
| (准教授) | 北島 佐知子 | 非可換解析論 Noncommutative Analysis | 理学専攻 物理科学領域 統計物理学と同じ |

【参考】生活工学共同専攻を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」（別冊子）で出願すること。

2026年6月1日現在

| 生活工学共同専攻 | | ☎ 03-5978- (下記☎参照) | |
|----------------------------|---|---|---|
| 担 当 教 員 Position | 名 称 Name | 授 業 科 目 Main Subject | 研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野 |
| 教授 Professor | GSC 太田 裕治 OHTA Yuji ☎(5739) | 生活支援工学 Life Support Engineering | 【人間工学】我々の生活と直接関連する生活支援機器、高齢者支援機器、人工臓器等の医用福祉機器の開発に関する工学的基礎研究を行う。生体システムを深く解析すると同時にシンセシス（設計）と技術評価に重点をおきつつ研究を進めている。 e-mail: ohta.yuji@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 大瀧 雅寛 OTAKI Masahiro ☎(5748) | 環境衛生工学特論 Environmental Sanitation Engineering, Advanced Course | 【環境工学】安全で快適な生活環境を確保するために、環境因子（主に水環境）が人間に与える様々な影響を評価する手法、及びそれらを管理制御する技術について工学的に検討、研究を行う。 e-mail: otaki.masahiro@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 近藤 恵 KONDO Megumi ☎(2551) | 生活環境史特論 Living Environment History, Advanced Course | 【自然人類学】ヒトの生物としての特徴を理解するため、現生の生体人類だけでなく、化石人類も研究対象とする。ヒトの身体に対する理解をより深め、それを踏まえて生活における身体に関わる諸問題について研究する。 e-mail: kondo.megumi@ocha.ac.jp |
| 教授 Professor | GSC 長澤 夏子 NAGASAWA Natsuko ☎(5743) | 建築環境論 Architectural Planning Theory | 【建築人間工学】都市や建物の利用者および環境にやさしい建築をつくるために、人間の生活、行動や身体とそれを取りまく環境について工学的なアプローチで、建築空間の設計の根拠を提示する研究をおこなう。 e-mail: nagasawa.natsuko@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 秋元 文 AKIMOTO Aya ☎(5746) | 先端医療材料工学特論 Advanced Medical Materials Engineering | 【生体材料工学】医療現場や基礎医学・生物学の研究現場で活用できる生体材料の創製を目的として、構造-物性相関解析を基盤とした高分子材料の機能化を行う。 e-mail: akimoto.aya@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 片桐 悠吾 KATAGIRI Yuji ☎(5585) | 建築設計学 Architectural Design | 【建築意匠・西洋建築史】芸術・文化・歴史との接点を探しながら、建築図の記述と人文的資料読解を通じて、自らの理論と手法を確立する。「大文字の建築」という理念への批評をもとにして、設計行為をひらくことをめざす。 e-mail: katagiri.yuji@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 河合 英徳 KAWAI Hidenori ☎(5917) | 居住空間環境学特論 Residential Space Environmental Science | 【建築環境工学】建築の内外に形成される微気象（主に熱環境、風環境）を数値解析や観測により明らかにしながら、頻発する極端気象や気候変動に適応した生活空間の環境設計手法やその評価技術に関する研究を行う。 e-mail: kawai.hidenori@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC トリベッテ ジュリアン TRIPETTE Julien | 身体行動・健康論 Physical Behavior and Health Theory | 【健康・運動科学】非感染性疾患を防ぎ健康寿命を延ばすことで生活の質を向上させることを目的とし、ウェアラブルセンサーなどを使用して、行動の認識または身体活動量の評価方法等の新しい手法について研究を行う。 e-mail: tripette.julien@ocha.ac.jp |
| 准教授 Associate Professor | GSC 藤山 真美子 FUJIYAMA Mamiko ☎(5477) | デザイン工学論 Design Engineering Theory | 【都市・建築デザイン学】都市・建築空間を構成する自然、技術、生活等の重層的構造について検証を行うとともに、次世代社会における都市・建築デザインの可能性について工学的理論と芸術的感性の総合的視点から研究を行う。 e-mail: fujiyama.mamiko@ocha.ac.jp |
| 講師 Lecturer | GSC 土田 修平 TSUCHIDA Shuhei ☎(5242) | エンターテインメントコンピューティング特論 Special lecture of entertainment computing | 【情報工学、ヒューマンコンピュータインタラクション、計算機工学】 e-mail: tsuchida.shuhei@ocha.ac.jp |

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP
1

事前準備

以下のものをご用意ください

- ① パソコン(インターネット接続とPDF表示が可能なもの)、プリンタ
- ② 卒業(修了)証明書、成績証明書等の提出書類
- ③ 顔写真データ(当日に本人確認が可能な、3ヶ月以内に撮影した単身、脱帽、正面向きのもの。実際の容姿と異なるような加工等はしないこと。)
 - ファイル形式(jpeg,jpg,png,bmp)、最大10MBまで
- ④ 角形2号(24cm×33.2cm)の封筒(出願書類郵送用)

提出書類

(顔写真データ)

STEP
2

インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/ocha/>

または、
大学ホームページ ▶ <https://www.ao.ocha.ac.jp/>
からアクセス

STEP
3

マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

① 初めて登録する方は **マイページ登録** からログインしてください。

② メールアドレスの登録を行って **仮登録メールを送信** をクリックしてください。

③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。

④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。

⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて **ログイン** をクリックしてください。

⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。

⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。

⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続を行う** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので**ログアウト** ボタンをクリックしてください。

STEP

4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。
検定料は、⑥申込登録完了画面が表示されるまでは支払わないでください。



①マイページログイン後の
出願手続を行う ボタン
から登録画面へ



②入試区分の選択



③志望専攻・コース(領域)の
選択



④個人情報(氏名・住所等)の
入力



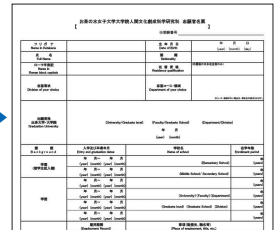
⑤出願内容の確認



⑥申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑦検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑧出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。

※払込済の手数料は、いかなる理由があっても返還しません。

検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号
メモ(13桁)

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済
番号メモ(11桁)

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号
メモ(11桁)

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

確認番号
メモ(6桁)

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|

収納機関番号
(5桁)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 8 | 0 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP

5



検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されている必要があります

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機

あなたも、コンビニに、
FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

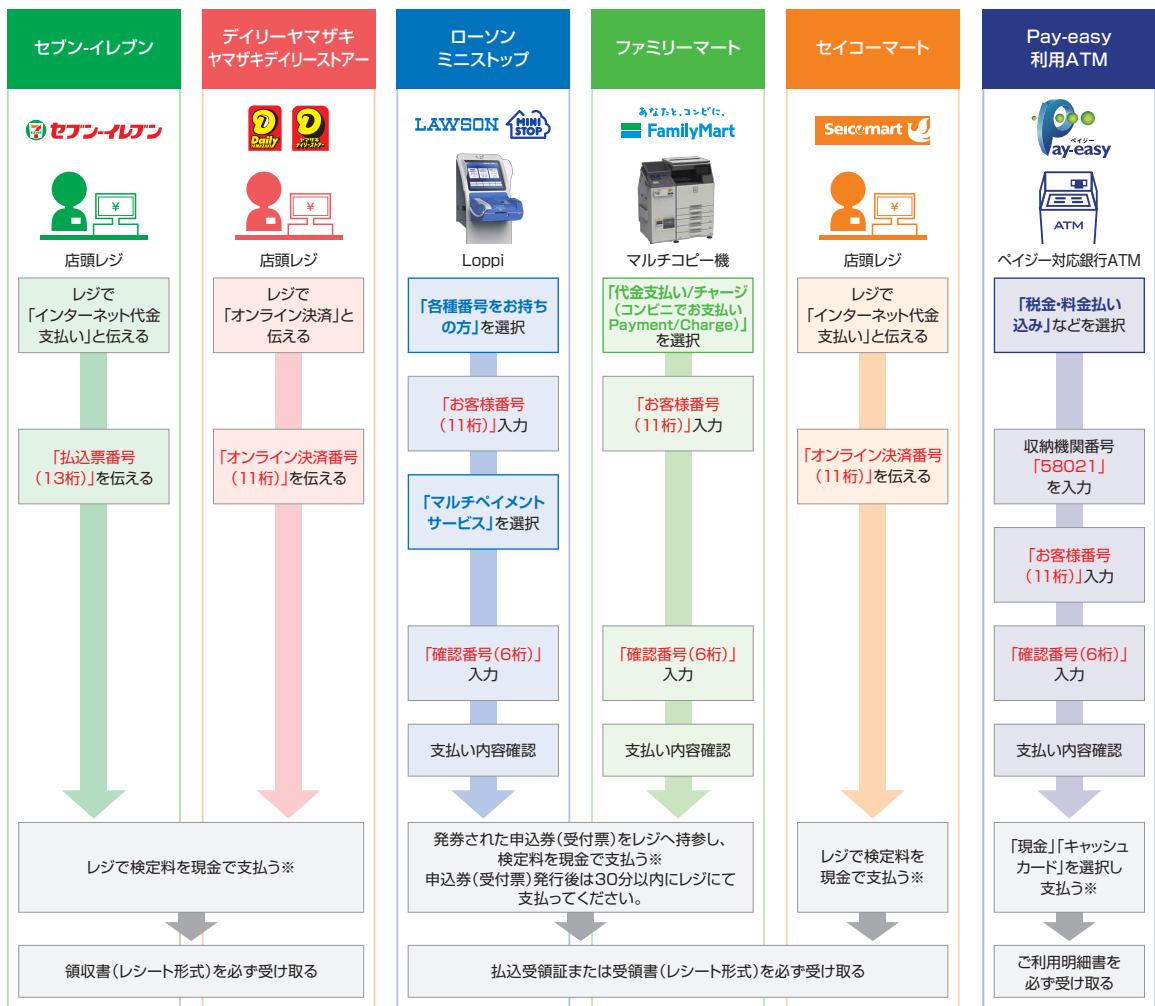
出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。
※検定料の他に手数料がかかります。
※お支払期間は、申込日を含めて4日間です。ただし、4日以内に出願締切日となる場合には、締切日が優先されます。期間内に入金がない場合には、出願申込は自動的に取消されます。

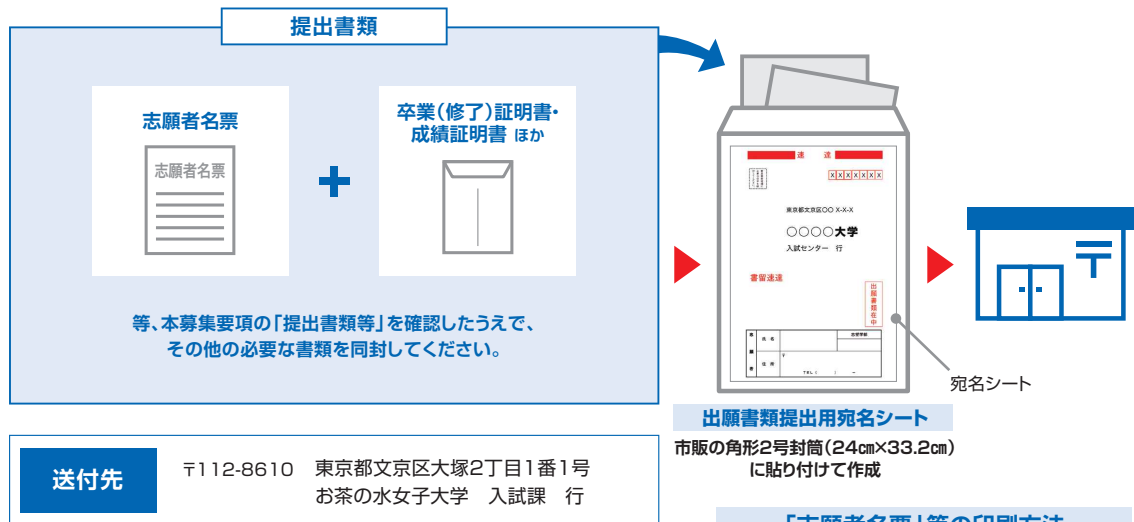
STEP

6

提出書類の印刷と郵送

登録だけでは出願は完了していませんので注意してください。

出願登録、検定料の支払後に送られる「出願サービス 支払い完了のご案内」メールに記載されたURLから、志願者名票等をダウンロード・印刷し、その他の提出書類(詳細は「提出書類等」を確認してください)と併せて出願期間内に郵便局窓口から「書留速達郵便」で郵送してください。※出願締切日必着。



「志願者名票」等の印刷方法



※提出書類の入力事項(氏名や住所)に誤りがあった場合は、そのまま郵送せず、必ず入試課に連絡してください。

※異なる入試区分や入試日程(例:8月入試と2月入試ほか)に出願する際は、それぞれに提出書類を準備し、個別に出願してください。

※出願受理した検定料・提出書類は一切返却しません。

- (1) マイページに表示された「志願者名票(印刷)」のボタンをクリックしてください。
- (2) お支払いが正常に完了すると「志願者名票(印刷)」のボタンをクリックできるようになり志願者名票の出力ができます。

〈出願完了〉

出願時の
注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、検定料を支払い、提出書類を郵送して完了となります。登録が完了しても提出期限までに書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願登録、検定料の支払いは出願締切日8時59分まで(営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります)、必要書類の郵送は出願締切日必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

出願書類を受理したことを志願者に通知はしません。提出書類の配達状況は、郵便局の郵便追跡サービスで確認してください。

STEP

7

受験票の印刷

本学で出願受理後、出願期間の最終日から3週間後までに、受験票をインターネット出願サイトのマイページに掲載します(郵送はしません)。掲載時に受験票発行通知メールを送信しますので、必ず印刷して試験当日持参してください。また、入試実施日の1週間前までに受験者心得などをインターネット出願サイトのマイページに掲載します(郵送はしません)。事前に印刷のうえ試験当日に持参するか、スマートフォン等で確認できるようにしておいてください。



※受験票は必ずA4判用紙に片面印刷にしてください。

※受験者心得には受験にあたっての注意事項が書かれています。必ず受験前に内容を確認してください。

※入試実施日の1週間前になっても受験票のダウンロードができない場合はお問い合わせください。

○お茶の水女子大学交通案内

【池袋駅から】

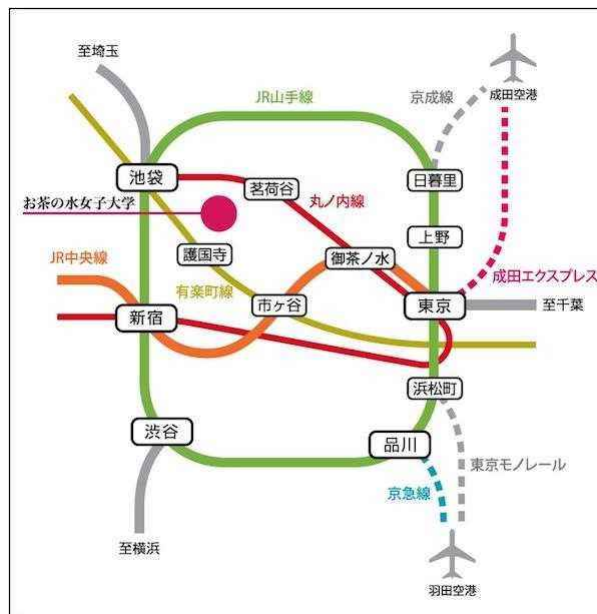
東京メトロ丸ノ内線 「新宿、荻窪方面行」茗荷谷駅下車 徒歩約7分
東京メトロ有楽町線 「新木場方面行」 護国寺駅下車（5番出口） 徒歩約8分
都営バス-都02乙 「東京ドームシティ(一ツ橋)行」大塚二丁目下車 徒歩約1分

【東京駅 又は 御茶ノ水駅から】

東京メトロ丸ノ内線 「池袋方面行」茗荷谷駅下車 徒歩約7分

【大塚駅から】

都営バス-都02 「錦糸町駅前行」大塚二丁目下車 徒歩約1分



大学院博士後期課程

一般入試 外国人留学生入試

所定様式類

別紙

ライフサイエンス専攻を除く
(別主題論文提出者用)

審査論文調書

※受験番号

| | | |
|----|------|----|
| 氏名 | 志望専攻 | 専攻 |
| | 志望領域 | 領域 |

私は、

(修士論文題目)

のところ、下記の論文を以て審査いただきたくお願いします。

(審査論文題目)

| | | |
|------|-------------------------------|--|
| 発表方法 | <input type="checkbox"/> 印刷発表 | 掲載誌名・発行番号・頁・発行年月日 (当該誌か抜刷、又は掲載証明提出) |
| | <input type="checkbox"/> 口頭発表 | 発表した学会等の名称・発表年月日 |

※印欄は、記入しないこと。

推 薦 書

※ 受験番号

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（博士後期課程） 専攻 領域

入学志願者 を下記のとおり推薦します。

年 月 日

推薦者（所属・職名）

（氏 名） 印

入学志願者の修士論文等のテーマの背景、概要、特色（特に顕著な点）について記入してください。

※必ずA4判片面1枚に収めること。

※欄は、記入しないでください。

（注）記入者は、指導教員またはこれに準ずる者とする。有職者の場合にあっては、本人を熟知し、職場において指導的立場にある者等とする。

本推薦書は厳封の上、本学入学志願者にお渡しください。